

関ヶ原

BOOGIE★WOOOGIE

〜毛利家の場合〜

作 小川大二郎

毛利秀元(もうり ひでもと)・・・毛利輝元の養子。総大将輝元の代わりに西軍として参加
吉川広家(きつかわ ひろいえ)・・・毛利家家臣の筆頭

福原広俊(ふくはら ひろとし)・・・毛利家家臣

粟屋元豊(あわや もととよ)・・・毛利家家臣

穴戸元統(ししど もとつぐ)・・・毛利家家臣

熊谷元直(くまがい もとなお)・・・毛利家家臣

長東正家(ながつか まさいえ)・・・大名・西軍

長宗我部盛親(ちようそかべ もりちか)・・・大名・西軍

安国寺恵瓊(あんこくじ えけい)・・・大名・西軍

石田三成・・・西軍の実質的な大将

島左近・・・三成の家臣

大谷吉継・・・大名・西軍

徳川家康・・・東軍大将

黒田長政・・・家康の軍師

本多忠勝・・・大名・東軍

容光院(ようこういん)・・・広家の正室

大善院(だいぜんいん) きく・・・秀元正室

清光院(せいこういん) 南の方(みなみのかた)・・・秀元養母

鷹(サブロウ)・・・家康の飼っている鷹

毛利秀元【少年】・・・回想

長宗我部盛親【少年】・・・回想

お梅・・・毛利家の侍女

毛利輝元・・・西軍総大将。大阪城で豊臣秀頼を守っているはず

雲丸・・・輝元直属の忍び

影丸・・・輝元直属の忍び

弁士

9月15日夜明け前

弁士

運命とは、かくも儚きものである。
全ての運命は過去の流れより作られているのであります

時代は安土桃山の慶長5年。西洋の暦で言うとうと1600年。
現在から411年の昔。

私たちの運命も、この時から方向付けられたといっても過言ではありません。

場所は美濃国、現在の岐阜県。不破郡関ヶ原

ここで行われたのが、皆さんご存知の、天下分け目の大合戦

そう。関ヶ原の戦いでございます。

豊臣秀吉死後の政権を巡って争われた徳川家康を中心とする東軍、

そして石田三成を中心とする西軍の決戦。

それが、関ヶ原の戦い。

この戦いで勝利した家康は政権を完全に掌握し、

現在の日本の礎になる江戸幕府を作ったのであります。

さて、ここまでは大人であれば大体はご存知のはず。

しかししかし、ご存知の方は、ご存知のほず

この合戦の運命を握っていたのは家康でも三成でもありませんでした。

この合戦の運命を握っていたのは、たった一人の頑固者だったのであります。

その者の名前は吉川広家。そう、この物語の主人公であります。

え？タイトルは関ヶ原 **BOOGIE★WOOGIE** 毛利の場合だろ？

何故主人公が吉川なんだって？

実はこの主人公、禄高の高い大名ではなかったのです。

西軍として「毛利家」に仕えていた一家臣だったのであります。

この合戦の勝敗はこの一人の男が握っていたのであります。

関ヶ原の運命を握るといことは、

それすなわち現在の私たちの運命を握っていたのであります。

この男の判断しなければ、今日私たちは生まれていなかったかもしれません。

皆様にご覧頂くのは、勇敢な戦いでも、ひりつく男の駆け引きでもありません。そういうのを期待してお越しくださったお客様、お出口はあちらでございます。

ここでご覧になるのはひとりの男の頑固な意地でございます。

それでもよろしいですか？よろしいですか？

……ありがとうございます。

それでは、見ていただくようではありませんか。

ここは関ヶ原の南宮山。いわずと知れた毛利陣内

場所の確認はお手元のパンフレットをご覧ください

時間は深夜、夜明け前。

既に勝利を確信していた西軍総大将代理毛利秀元は前祝いと言わんばかりに

毛利家懇意の安国寺恵瓊、長束正家と杯を交わしておりました。

1600年9月15日 《旧暦》 未明

南宮山 毛利秀元陣内

毛利秀元、長束盛親、安国寺恵瓊がいる

恵瓊 秀元殿、少しお休みになられては如何かな？

秀元 大丈夫っしょ。今回勝つし

長束 秀元殿、油断は禁物でございます

秀元 何？負けると思ってるの？

長束 いや、そういうわけでは・・・

秀元 どう考えたって負けようないっしょ。家康超はか

あの狐も今度ばかりは判断を間違えましたな

長束 いや、しかしあの家康のことですから何か策があるのではと・・・

秀元 へえ、じゃあ長束さんは東軍に行けばいいんじゃないっすか

長束 い、いや私はそのような事決して思っては・・・

秀元 よかった。ここで東軍に付くなんて言ったら・・・この場で切る所でしょ

長束 な、何と・・・

恵瓊 ははは。秀元殿もお人が悪い

秀元 いや、まじで。俺だつて馬鹿じゃないから・・・黙って俺に着いて来てくれればいいんよ

福原が来る

福原 殿々！殿お！

秀元 聞こえてるよ

福原 一大事でございます

長東
福原

何！なんじや一大事とは？！
それが・・・

三成と左近と大谷が出てくる

三成
惠瓊
三成
左近
三成

これはこれはお三方ご一緒でしたか。手間が省けました
三成殿に左近殿、後ろにおられるのは大谷殿か？！こんな場所までどうして・・・
ええ・・・すでに御存知かとは思いますが、合戦はこの関ヶ原の地で行われることになりました
続々とこの関ヶ原に各地から兵が集まっております
この戦は、亡き秀吉様の遺志を継ぐ大事な戦です。
我ら西軍は3方から東軍の家康を攻め込みます。正面からは我らが。側面からは小早川軍が。
毛利殿には後方から叩いていただきたい。

秀元

戦いの半ばで大谷殿が狼煙を上げます。それを合図に一気になだれ込んでください。
そうすることにより西軍の勝利は確信的なものになるでしょう
わかっているって

三成

安国寺惠瓊殿、長東正家殿も毛利軍と共に動いていただきたい

長東

心得た

惠瓊

御意に

左近

・・・くれぐれも良からぬ考えなどは起こさぬよう

秀元

そら、どういう意味だよ

左近

噂ではあるが、東軍に寝返るものがあるという話が出てきている。

秀元

おい、それは毛利が東軍に付くかもしれないって言ってるのか？

左近

そこまでは言っておらんが、そのようなことがあった場合は・・・

左近、持つている槍を構える

三成 左近！無礼であるぞ。宰相殿にそのような振る舞いはこの三成が許さん！

左近 失礼した

三成 秀元殿お許しください。左近も戦前ゆえに気が立っておるのでしょう。

惠瓊 秀元殿、抑えなされ

秀元 ……あゝ。

惠瓊 三成殿、騒ぎを起こされにいらしたのか

三成 いやいや、私は堅実な男。不安要素が少しでもあれば潰しておくのが癖でしてな

惠瓊 ならば安心なされるがよい。我々の西軍参加は揺るぎませぬ

左近 主君がそうでも、家臣はどうか…

秀元 何?!

左近 主らの前方に構える吉川家、毛利の家臣であろう？吉川が東軍と内通しているという噂は

惠瓊 足輕にまで流れているぞ

左近 あの馬鹿！まだウダウダやっておるのか

長東 主君の意に反し敵と内通するなどもつてのほか

秀元 そうなのですか秀元殿？

三成 ……心配いらん

左近 まあ、秀元殿がそう仰るのであれば信じましようぞ

三成 私は三成殿の家臣。三成殿の身の安全が何より大事じゃ。もしもお主らのせいで三成殿の身に

長東 危険が及ぶようなことがあれば…

三成 左近、やめい。

長東 三成殿、もう自陣に戻られたらいかか？

三成 そうしたいのも山々なのだが、合戦前にまだ行かなければならぬところがありましてね

惠瓊

ほう、どちらへ？

三成

小早川の坊ちゃんのところですよ。毛利とも繋がりが深かろう

惠瓊

小早川秀秋殿ですか？何ゆえに

三成

言ったでしょう。私は堅実な男。不安要素は潰さないといけないのですよ
では、ご活躍期待しておりますぞ

三名出て行こうとする

秀元

待て

三成

何か？

秀元

勘違いしているようだから言っておいてやる。この戦の総大将はお前じゃなく毛利家だ。

三成

俺の親父の毛利輝元だ。親父は大阪城を守っているから合戦での指揮をお前に任せているが、俺は総大将の代わりにこの戦にきているんだ。指揮は任せるが俺にかい顔はするな
そうでしたな。では、ご武運を祈っておりますぞ。総大将代理殿

三成、左近出ていく。

去り際に大谷が笑みを見せ、持っていた花を渡す

大谷

この花の花言葉は……

大谷去る。

秀元

は？訳わかんねーし

長束

マツヨイグサ。花言葉は……裏切りの恋

惠瓊 裏切れということでしょうか
秀元 んなわけねーだろ。それに恋ってなんだよ。恋って
惠瓊 相変わらず腹の読めん方々ですな
長束 見ましたか左近の槍・・・既に血がついておりましたぞ。それに大谷殿のあの目・・・
惠瓊 何でも、流行り病にて顔は殆ど溶けているとか・・・
長束 ひい・・・我々にうつりませんでしょうか？！
秀元・・・飲み直した。酔いが醒めた。酒を持って来い！
長束 秀元殿、我々も一度自陣へ戻らせていただきますぞ
惠瓊 ええ。少し休息をとらせていただきます
長束 連れねえな。三成の心配性がうつつたか？
惠瓊 我々にも準備がありますので
長束 では、一旦これにて

安国寺惠瓊、長束正家出ていく

福原と秀元が残る。

目の合う二人だが、福原は一礼して急いで出ていく

秀元
弁士

ふん・・・

ところ変わってこちらは同じ南宮山の吉川陣内

吉川勢は毛利軍の前衛として、各軍の先頭に陣を張っておりました

おや、あそこにいるのがこの話の主人公、吉川広家でございます

見たところあまり頼りになるようには思えません・・・

今も他の家臣たちから攻められているようであります

ここはひとつ様子を伺ってみましょう

毛利軍前方の吉川軍陣内

吉川広家をはじめ粟屋元豊・宍戸元統・熊谷元直が頭を突き合わせていた

吉川 うーん・・・

もはや考えている場合ではありませんぞ！

吉川 わかっておるが・・・

宍戸 東軍と西軍、はつきりさせようではありませんか

熊谷 はつきりしておる！東軍だ

宍戸 しかし殿は西軍に付くつもりではないか

熊谷 だから、そこを何とか・・・

宍戸 この際、西軍としての参加も考えなければならん

粟屋 それでは話が進まんではないか

熊谷 吉川殿はどうお考えなのだ？

吉川 うーん・・・

宍戸 吉川殿！

吉川 そうだなあ・・・

粟屋 吉川殿！

吉川 はっ、はい！？何じゃ？

粟屋 はあー・・・吉川殿良いですか、我ら毛利家家臣一同、全てはお家のためを思って東軍に付く

吉川 と決めたわけですぞ

吉川 ああ

粟屋 それも貴殿が東軍が勝つと言って聞かんからだ

吉川 ああ、間違いない

宍戸 本当に間違いないのでしょうか

吉川 うむ。そのはずじゃが・・・

粟屋 はずでは困るのです！安国寺恵瓊殿に啖呵を切られたあの威勢はどこに行ったのじゃ

吉川 貴殿がそのような調子ではまとまる物もまとまりませんぞ
しかし、殿がなあ・・・

家康が本多忠勝・黒田長政を連れてやってくる

家康 良いかな？

吉川 え？えーっ？！いえ、家康どの！

黒田 お邪魔でしたか？

穴戸 黒田殿に本多殿まで

黒田 何やら難しい話の最中でございしましたか

本多 難しい話は苦手でございませぬ、ハッハッハ・・・ なんですか、敵を見るようなその目は。仲間

熊谷 同士ざつくばらんに行こうではありませんか

黒田 え、ええ・・・

本多 本田殿、まだ仲間と決まったわけではありませんよ

黒田 何？！

本多 正式には、敵軍総大将の家臣たちですからね

黒田 そうか・・・ならば今のうちに殺してしまいますか！（槍を振り回す）

熊谷 ひい・・・そんな・・・

本多 本田殿、やめなさい。

黒田 冗談ですよ。はははは、驚きましたか？

熊谷 ふふふ、人が悪い

熊谷 い、一体何をしに來られたのじゃ

黒田 勿論、最後の確認ですよ

吉川 最後とな

黒田 そう、家康様は吉川殿に会いに来られたのです

吉川 ワシに・・・

家康、無言で吉川に近づき、じっと見据える

見つめられ動けない吉川

黒田 何度もお話した事ではありますが、今回の戦、勝つのは我々東軍です
本多 その通り！

黒田 今は霧で見えませんが、西軍は見事な鶴翼の陣で我々東軍を囲んでおります。戦えば
本多 まず我々に勝ち目はないでしょう
栗屋 では・・・

黒田 しかしそれは、あくまでもそのまま戦えばの話。どんなに立派な鶴、たつて翼にはんの少し傷が
裏切りは・・・絶対に起きるのだな

吉川 勝つのは我々が東軍です

黒田 本多 今言えるのはこれだけ。どちらの味方をすればよいかはわかりませんな。

家康、吉川の肩を軽く叩いて出て行こうとする

吉川 家康殿、くれぐれも今回の戦、東軍勝利の暁には毛利家の領土の安堵を約束していただきたい

家康、にやりと笑い出ていく

黒田 本多殿
本多 見え。心得ておりますとも

本多、懐より書状を取り出す

黒田 今回の約束が書かれた書状です。こちらに署名を
吉川 そうか・・・(読んで) 筆をもて
穴戸 吉川殿もう一度考えられたほうが
黒田 今更考える時間などありませんよ

吉川筆を受け取り書状にサインをする

黒田 確かに。お約束いたしましたぞ。あ、こちらが控えです

書状が複写式

黒田 では

黒田・本多去る

栗屋 ふう・・・あんな大物が3人揃って・・・
穴戸 それだけ毛利の戦力は重要だということだ
熊谷 しかし、これで後には引けなくなりましたね

穴戸 吉川殿、しっかりしてください
吉川 あ？ああ・・・
熊谷 書状を交わしたからには東軍になるしかありませんぞ
粟屋 問題は、殿ですな・・・
吉川 殿は・・・ワシが何とか説得しよう。
熊谷 できるのですか？
吉川 やるしかなかるう

福原広俊が走りこんでくる

福原 一大事です！一大事ですぞ！
熊谷 福原殿
福原 一大事です
穴戸 どうした
福原 とにかく一大事です
粟屋 だから、何がだ！
福原 先ほど、毛利の陣に三成が来て・・・
穴戸 三成殿が？！
福原 殿が西軍での参加を確約してしまった
粟屋 何い！
福原 恵瓊殿も長束殿も一緒だったためこれはもう反故に出来ませんぞ
穴戸 何と・・・
福原 それだけなら良かったのですが
粟屋 まだ何かあるのか

福原 俺は西軍総大将の代理だ。俺にでかい顔するなど啖呵まで切ってしまいました
熊谷 あちやー・・・最悪じゃないですか

ふらふらと出て行こうとする吉川

熊谷 吉川殿、どちらへ？

吉川 ン？お家帰るの

熊谷 え？

吉川 だから、疲れたから、お家帰ってモンハンやって寝るの

穴戸 まずい壊れた

吉川 今日はねりオレウスを倒しに行くんだよ

粟屋 吉川殿を止めるのだ

吉川 離してよー。8時にログインしようって約束してるんだからー

粟屋 誰か、正気に戻すのだ

ビンタ等を吉川へ

吉川 はっ！わしは・・・

粟屋 正気に戻られましたか

吉川 早く終わらないかなって、意識が未来へ未来へと・・・

穴戸 きっと400年以上未来ですぞ

熊谷 何の話ですか？

穴戸 本筋とは関係ない

福原 皆さん、確かに状況は当初の計画とは変わりましたが、まだ何とかありますよ

熊谷 本当か？

福原 ええ。ここはもう西軍として戦おうではありませんか

穴戸 ああ・・・

粟屋 こいつ知らないんだ

福原 え？だって殿はもう西軍として戦う気満々なんですから、我々家臣は従えは・・・

福原、目の前に書状を出される

福原 これは？？

粟屋 いいから読め！

福原 な・・・何てことを

穴戸 つい先ほど家康ご一行が直々にここに来て、吉川殿が署名したところだ

福原 どうするんですか！

お主がもつと良い知らせを持ってきてくれれば、事態は変わっていたかも知れんよ

穴戸 吉川殿、これはもう貴殿の判断にお任せするしかありませんな

粟屋 何か策はあるんでしょうな、吉川殿

福原 吉川殿

熊谷 吉川殿

穴戸 吉川殿

4人 吉川殿！

吉川 うるさい・・・やはりあれを、やるしかないのか・・・

第一幕

弁士

さてさて、時間が少々経ちました卯の刻。現在の時刻で言うと大体午前7時
場所は毛利陣内。早速吉川広家が殿、毛利秀元の説得にあたっております

明け方の毛利陣内

秀元と吉川がいる

吉川

だからですね、何度も申し上げている通り、東軍が勝つことになっています

なんでそーなるんよ

秀元

西軍から裏切り者が出るんです

吉川

誰よ

秀元

誰が寝返るのかはわかってはおりませんが・・・

吉川

じゃあ、駄目じゃん

秀元

これは家臣一同の総意であります！

吉川

そんなのいつ決めたんだよ

秀元

何日も前から決まっていたじゃありませんか。負ければ毛利家は潰されてしまいます。

吉川

でもさあ、親父が総大将じゃん。俺らが勝手に東軍になったらまずいんじゃないかね？

秀元

輝元様は無理やり担ぎ出されただけであります。家康殿もわかって下さっております

吉川

ふーん・・・そういうもん？

秀元

そういうものです。全てはお家のために・・・

長宗我部盛親が入ってくる

盛親 失礼！おお、これは吉川殿も一緒か

吉川 長宗我部殿、わざわざお越しとはどうなされた？

盛親 どうしたもこうしたも、恵瓊殿から聞いたが西軍での参加が決まったというではないか

秀元 そうなのよ、盛親ちゃん。三成が来てさ、ぐだぐだ言っちゃうからさ、俺ビシーっと言つて

やったわけよ

盛親 ほう・・

さしたら、流石の三成もおとなしく帰ったね

吉川 それは殿が西軍として参加するといったからです

秀元 おおよ

では、西軍でござるか

盛親 いや・・

某との話では東軍に寝返るとの約束だったではないか

吉川 ええ確かにそうなのですが・・

盛親 もしや！

なんです？

盛親 某のことも裏切るつもりであったか！

へ？

盛親 おのれー！毛利め、これまでの友好関係を捨て長宗我部家を滅ぼすつもりかあ！

吉川 長宗我部殿、落ち着いてください

盛親 かくなるうえは！(刀を抜く！)

長宗我部殿！

盛親 お主だけでも道連れにして一矢報いてやるわあ！

盛親、秀元に切りかかる

盛親

ふゆわあ・・・

が、あつという間に秀元にいなされ、へたり込む

秀元

やめときなよ弱いんだからさあ

盛親

うう・・・

秀元

俺じやなきや大問題だよ

盛親

だつて・・・だつて・・・

秀元

裏切るつもりなんてないから安心しな

盛親

じゃあ・・・

吉川

長宗我部殿、まずは刀を納めてください

盛親、納刀

秀元

盛親ちゃんさあ、あんたが幼馴染じやなきや叩つ切つてるよ

盛親

ごめんね秀ちゃん・・・

秀元

ほら、弱虫だつてばれるからしやんとしな

盛親

うん・・・(しやんとして)で、先ほどの話でござるが

吉川

ええ、そのことですが・・・

盛親

西軍で間違いないのでござるな

秀元

ああ、いいよ

吉川

いえ！当初の予定通り東軍として戦います

秀元

いやいや、西軍だし

吉川 ですから、先ほどから申し上げているではないですか

秀元 でも、三成にビシーつと言っちゃったし

吉川 三成殿は負けますから

秀元 そんなんわかんないじゃん

吉川 いえ、既にわかっているのです

秀元 いまから裏切るのってなんか卑怯な感じするし

吉川 勝てば官軍です

盛親 ええい！はつきりしてください

秀元 お前うるせえよ！

盛親 ごめん秀ちゃん・・・

吉川 殿、お家のためでございます。ここは我々家臣の意思を汲んでください・・・

秀元 ・・・そういわれたらさあ

吉川 お願いでございます

吉川 深々と頭を下げる

秀元 ・・・わかったよ。

吉川 本当でございますか。有難き幸せ

盛親 では、当初の予定通り、戦が始まったら東軍になるということでよろしいのですな

吉川 ええ

秀元 だけどさあ、あいつら納得すつかな

吉川 あいつらとは？

盛親 安国寺惠瓊殿と長束正家どのでござるな

秀元 ああ。

吉川 さん……

盛親 両家とも長宗我部家と並び、毛利家を支える大事なお家でございます。ここは意見を統一

吉川 してくだらないことには……

吉川 そうですな……(秀元を見るむ)

秀元 いやいや、俺じゃないですよ。お前が東軍って言ったんだからお前説得して来いよ

吉川 やはり……私でございますかね……

秀元 当然でしょ

盛親 しかし、あの二人が吉川殿のお言葉に耳を貸すかどうか……

秀元 お前ら仲悪いもんな

吉川 な……悪いわけではございません。私はいつも毛利家のための事を思つて意見申し上げている

秀元 のに、あの二人と来たら自分の利権ばかりを優先させるものですから……

吉川 だけど二人とも親父のお気に入りだ

盛親 口ばかりは立ちますからな

吉川 長束殿は腰巾着としても安国寺恵瓊殿は一筋縄ではいきませんぞ

盛親 ふん……たかが坊主です

吉川 いまや一国の大名です。戦に関しても長けておられる

盛親 坊主に戦の何がわかりましょう！

吉川 (オフ) 坊主を呼びましたかな

恵瓊と正家が入ってくる

盛親 恵瓊殿………達

長束 ちよつとちよつと、私はおまけじゃありませんよ

恵瓊 どこからか、坊主を呼ぶ声でしたが気のせいでしたか

秀元　いや、ちようどよかつたんじゃね
 恵瓊　ちようどよかつたとはいかなことですか？まさか、吉川殿でも亡くなられましたか。戦前だと
 吉川　いうのに残念な。では経を上げさせていただきましょう。南無妙法蓮華経・・・
 吉川　ごほん！（咳）ごほほ！
 恵瓊　おお！吉川殿、無念のあまり化けて出られたか。成仏しなされ・・・南無南無・・・
 吉川　なまぐさめ・・・
 恵瓊　ふん、ちよつとした冗談ではありませんか。
 吉川　戦の前に冗談など言っている場合か。何しに参られた
 恵瓊　先ほど長宗我部殿の使いが来てから一行に動きがないので様子を見に来たまでですよ
 吉川　坊主のくせにじつとしてられんのか
 恵瓊　何か？
 吉川　いえ・・・
 恵瓊　うじうじと・・・
 吉川　何を！・・・
 盛親　戦の前にいがみ合つてる場合ではなからう
 長束　長宗我部殿こそ、こちらで何を？
 盛親　某も・・・最終的な確認を・・・
 長束　確認？何の確認です？
 盛親　き、決まつておる。東軍と西軍どちらに付くかということじゃ
 長束　ん？おやおやおや？それはさつき我々の元へ来て確認なさつたではありませんか
 盛親　だから、毛利殿の下へ来て最後の確認でござる
 長束　そんなに我々が信用なりませんか？もしかして、秀元殿をそそのかしに来たのでは
 盛親　ありませんでしょうな？東軍へ味方するように
 長束　あ、いや・・・

長束
盛親
長束
盛親
秀元
長束
秀元
長束
秀元
惠瓊
吉川
惠瓊
吉川
長束
惠瓊
吉川
惠瓊
秀元
長束
吉川
惠瓊
長束
吉川
惠瓊
長束

あらら・・凶星ですか

そんな事はない！そのかすなど・・・

当たらずとも遠からずというところでしょうかね・・・

違うと言っているではないか！それ以上愚弄するならば・・（刀を抜こうとする）

（盛親を制す）やめな。長束さんもその辺にしておこうよ

はっ、秀元殿がおっしゃるのでしたら・・

別に盛親ちゃんは俺をそのかしに來たわけじゃないよ

左様でございますか。わたくし、言葉が過ぎましたかね・・・

仲良くやろうよ。意味無い争いとかだるいし

お見苦しいところをお見せいたしました。しかしまあ、せつかくこうして西軍の後方部隊が

集まったことで少し作戦会議と行こうではありませんか

そのことなんでしょうか

どうなさいました？

此度の合戦、毛利家は東軍として参加いたす

なんと？！

い、いまさら何を言い出すのです！

秀元様もご了承くださった

まさかそんな・・・

本当でありますか（秀元へ）

まあ、なんつーかそんな感じの流れになったつーか

・・・そのかしたのは長宗我部殿ではなかったようですな

わしだつてそのかしたわけではない

これをそのかしたと呼ばずに何と言おうか・・・

み、三成殿にどう申し開きをなさるのです

吉川 勝つのは東軍じゃ。石田殿は生きてはいられん

どこからその自信がやってくるのだ

吉川 その筋からの間違った情報だ

惠瓊 ガセネタということも有り得るではないか

吉川 徳川家康殿、黒田長政殿、本多忠勝殿が3人が来てそのように言ったのだ。他に何を信じると申すのだ

何?!

その3人がやってきたのか?!

ああ。私の陣にやってきてそうおっしゃった。これが証拠だ(書状を出す)

(書状を読み)お主……ここまで愚かとは

愚かとはなんじゃ!

吉川 お主はいつから毛利家の大将になったのだ!主君に相談もなしお家の大事を決めるなど

惠瓊 言語道断であるぞ!秀元殿、このような横暴をお許しになるのですか!

吉川 いやあ、俺は別に……

秀元 その秀元殿のはつきりしない態度が家臣を増徴させることになるのです

惠瓊 は?お前誰に言ってるんだよ

良いですか。あなたのご判断はお父上の輝元様の決定と同然。それはつまり、毛利家全ての意志となるのです。毛利はこの戦の総大将であるのですぞ!

お主らが輝元様を担ぎ上げたのであろう

事情がどうであれ大将は大将だ

毛利は東軍になったのだ!

それを何故お主が決めるのだ!

わしではなく秀元殿が了承してくださった

吉川 お主がそそのかしたのであろう

惠瓊

吉川

お主等こそ輝元様をそのかしたではないか

惠瓊

ぬぬぬぬぬ・・みなさん良く考えていただきたい。果たして東軍に付くことが賢いかどうか

吉川

勝つほうに付くのが賢い選択であろう

惠瓊

勝てば正しいのですか？

吉川

当たり前だ

惠瓊

では仮に吉川殿のご意見どおり東軍に味方をし、勝つたと仮定して・・・

吉川

仮定ではなく勝つのじや

惠瓊

まあ、聞きなさい。勝つたと仮定して、その後毛利家は西軍東軍どちらからも相手にされなくなるでしょうな

吉川

なぜじや

惠瓊

当たり前でしょう。大将であるのに裏切つて、付いてきた者達に攻め込むなど武士のやること

吉川

ではない。末代まで毛利家は裏切り者として冷ややかな目で見られるのです

秀元

それまじいんじゃないね？

惠瓊

まじいどころではありません。冷遇されるだけならまだしも、どの国にも毛利の領土へ

吉川

攻め込む口実を与えてしまうことになるのですから

吉川

し、しかし・・・

惠瓊

それでもまだ、東軍に付くなどという考えをお持ちになるおつもりか

吉川

ぐぐぐ・・

惠瓊

もう戻ることとは出来ないのです。悪いことは申しませんが、ここは当初の予定通り・・・

盛親

吉川殿、どうなされる

惠瓊

それでもどうしても東軍に付くと申されるならば・・

秀元

ならば？

惠瓊

我々は毛利軍を守るように、取り囲んで兵を配置しておる事を努々お忘れなきように

秀元

本気でやんだな？

吉川 お主、長年の恩を忘れ毛利を裏切るといふのか

恵瓊 ……

秀元 ……わかったよ。広家、お前の負けだ

吉川 殿?!

秀元 西軍だ。

盛親 秀元殿!

恵瓊 わかっていただけでしたか

秀元 勝ち負けはどっちでもいいと思つてたけども、裏切り者つて呼ばれんのはただけなйтしよ

吉川 舐められんのか納得いかないし

秀元 殿、いけません!

長束 いや、もう決めたから

秀元 ご英断です

盛親 そうだろ

秀元 秀元殿、今一度よくお考……

吉川 考えたから。西軍

秀元 殿!

恵瓊 しつこい!俺が西軍つつたら西軍だよ!

秀元 ご立派ですぞ。それでこそ指揮官です

恵瓊 狼煙が上がり次第前方池田軍を蹴散らして一気に徳川勢へ攻め込むぞ

長束 かしこまりました

秀元 同じく

盛親 ……盛親ちゃんは?

秀元 ……御意

秀元 おし、じゃあもうすぐ始まるだろうから各自陣に戻り持ち場に着け!解散!

恵瓊・長束・盛親返事をして出ていく
吉川と秀元だけが残る

秀元 おい

吉川 ……はい

秀元 戻れよ。準備しろ

吉川 はい。わかっております

秀元 早く行けよ

吉川 ……はい

吉川の去り際を秀元が止める

秀元 広家。お前の思い通りじゃねえけど、あれがお前にとって一番良かったんだぞ
吉川 ……？

秀元 恵瓊にあそこまで言われてまだお前が食いつくようならば、お家への反抗としてお前を
吉川 切らねばならなかった

秀元 ……
吉川 ……
秀元 お前切りたくねえから。良い働きを期待しておる
吉川 はっ…

吉川 走り去る

吉川を見届けて秀元も去る

秀元が去ったのを見届けて雲丸が来る

雲丸 誰もおりません

毛利輝元が出てくる

輝元 大丈夫か？
影丸 はい

影丸も出てくる

輝元 そうか、いやあ隠れるというのはしんどいな
雲丸 早くお済ませてくださいませ。誰かに見付かつては一大事です
輝元 急かすでない

影丸 そう申されましても、輝元様をお連れしたとばれば我らの命も危ういのです
雲丸 わしが何とかするから大丈夫じゃ

影丸 大丈夫だった試しがございません。

輝元 して、大殿。危険を冒してまで何故関ヶ原に？
雲丸 ん？んん……

輝元 本来ならば西軍総大将として大阪城にておらねばならないお立場、いつもの散策癖という理由
雲丸 では納得いたしませんよ

輝元 え？駄目なのか？
雲影 二人、顔を見あわせて、

輝元 ……はあ
二人でため息をつくでない

影丸
輝元

輝元様！あなたというお方は！……
分かつておる、これじゃ

輝元、懐から握り飯の包みを出す

雲丸

それは……勝ち握り。

輝元

ああ。毛利家に代々伝わる握り飯。これを秀元に渡さねば

影丸

そんなものは使いの者に任せればよいではありませんか

輝元

いや、これは思いを持って主君から託さねばならんのだ。勝ちを手中に収めるといふ思いを

影丸

込めて握り、主君から手渡す。この習慣をぞんざいにした時は必ず負け戦になるのだ

輝元

では、秀元様に、殿が参った事をお伝えねば、いや、それは秀元の立場もあるだろうし……わしが来た事がばれば、あいつの面子をつぶ

雲丸

してしまつてはないか……

影丸

しつ……誰か来る

雲丸

秀元様か？

影丸

おそらく

輝元

どうするのじゃ？お、おい。待て……雲丸、影丸！

雲丸・影丸が隠れると同時に秀元が入ってくる。

秀元

お？誰お前

輝元

あ……その……

秀元

何してんだよ

輝元

わたくしは、お傍使えでございます

秀元

そういうのいらなくて言ってるんじゃない

輝元

は・・・どうしてもお傍にお仕えするようにとのお達しでしたので

秀元

誰からよ？

輝元

あの・・・吉川殿です

秀元

あいつ・・・そういうのいないから、帰っていいよ

輝元

そうは行きません

秀元

いらねえって言うてんだろ

輝元

このまま戻れば私は切腹ものです。どうか戦が終わるまでお傍に置いてくださいませ

輝元

しょうがねーな。じゃあ、隅っこでおとなしくしてろよ

※以降 輝元はずっと毛利陣内にいます。

第2場

吉川陣内

福原・粟屋・穴戸・熊谷が吉川の帰りを待っている

粟屋 まだか！吉川殿はまだ戻らんのか

穴戸 慌ててもしょうがないでしょう

粟屋 慌てずにいれるか。間もなく始まってしまおうぞ

穴戸 始まったら始まったままですよ

粟屋 指揮官がいらないのにどう戦をすればいいのだ

福原 少しは静かに出来ないのか！今できることは吉川殿を待つこと。言い争いをしてどうする

粟屋 む・・すまん

熊谷 戻られたぞ！

吉川がやってくる

粟屋 待っておりますぞ

吉川 ・・・うむ

熊谷 遅かったではありませんか。心配しましたぞ

吉川 ・・・うむ

福原 全軍布陣が完了した模様。いつ始まってもおかしくない状態です

吉川 ・・・うむ

福原 して、どうだったのです？

吉川 ・・・うむ

熊谷 殿は・・・わかってくださったか？

吉川 ・・・

粟福熊³ 吉川殿！

穴戸 やめられよ・・・お顔を見ればわかるであろう

吉川変な顔

粟屋 いや・・・わからん

穴戸 吉川殿！遊んでいる場合ではないだろう。説得に失敗したのですね

吉川 ・・・・うむ。秀元殿は西軍として戦うとご決断なさった

熊谷 どうするのですか！い、家康殿と約束してしまったのですよ

吉川 始めはわかってくださったのだが、恵瓊が来おって殿を心変わりさせてしまったのだ

粟屋 恵瓊殿か！あのなまぐさ坊主め

穴戸 彼が出てきてしまったてはしようがない・・・

吉川 長宗我部殿も長束殿も聞いておったから、もう変えることもできん

福原 これは・・・腹をくくるしかありませんな

粟屋 ああ、元々西軍だったんだ。こうなりや徳川と一戦交えてやろうじゃないか

熊谷 負けたらごめんないじや済まないのですよ

粟屋 負けなさいいんだろが。まず真つ先に家康と黒田と本多を倒せばいいんだよ

穴戸 なるほど、3人を殺して約束をなかつたことにすると・・・

福原 それしかありませんね。よし、そうと決まれば吉川殿、兵たちに準備の下知を

吉川 うむ・・・腹をくくるしかあるまいか

福原 お願ひ致します。西軍として戦う準備をせよと

吉川 いや、東軍じゃ

福島
は？

吉川 どう考えても西軍が勝つ気がせん。やはり東軍じゃ

粟屋 気は確かか！

吉川 吉川殿、いくらお主が考えたところで殿の決断を変えることは出来ないのですよ

穴戸 わかつておる。むしろ家臣が考えなければならんことはお家のことじゃ。先々を考えたら

吉川 ここは毛利家のために東軍につくべきなのじゃ

福原 もう一度秀元様を説得しに行かれるのか？

吉川 いや、行っても結果は変わらん

熊谷 もしや、さっき言っていた「あれ」とやらをするのですか

吉川 うむ・・・これだけはやりたくなかったのだが・・・

穴戸 その秘策とやらで殿のお考えが変わるのですね

吉川 いや、きつと変わらん。むしろ激怒するじゃろ

粟屋 お主が何を言っているのかまったくわからん。何をしでかすつもりなのだ！

吉川 聞いて驚くなよ・・・何もせん

一同 ・・・

吉川 どうじゃ

福原 いや、もう一回言ってください

吉川 だから、何もせん

一同 ・・・

福原 ですから、秘策というのは？

吉川 何もせん。これが秘策じゃ

粟屋 あー、よくわからんのだが、結局何もしないで西軍として戦うというのだな？

吉川 お主馬鹿か。東軍だといっておるだろ

粟屋 ば・・・馬鹿はどちらだ！何もしなかつたら・・・

穴戸 まさか、ここを動かぬおつもりか？

吉川 わかってきたか？

穴戸 なるほど・・・可能ではあるか・・・いやしかし・・・

熊谷 なんなんですか？

穴戸 我々が陣をしいたこの場所だが地形的にとても狭くなっている。そして我々は毛利勢の先頭に
いる。つまり我々が動かなければ後ろの毛利勢は前に出られんということだ

熊谷 それって・・・

穴戸 そう。毛利家は東軍と戦う事ができないということだ

熊谷 秀元殿が承知されるわけありませんよ

吉川 当然。だから殿には黙っとる

熊谷 そんなの負けたら切腹モノですぞ

吉川 どの道負けたら殺される

粟屋 でも裏を返せば、動かなければ東軍としても戦えんということではないのか

穴戸 そうなのだ。吉川殿そこはどうお考えなのだ？

吉川 ・・・・んー、東軍が勝てば戦が終わった後に「東軍のために動かなかった」と。西軍が勝てば
「西軍の大将が動くまでもなかつた」と適当に言えはいんじやなかるうか

福原 ・・・・最悪だ。戦国史上最底の腰抜け大作戦ですね。武士としてこんな汚い事考える人がいる

吉川 なんて・・・潔くなさ満天ですよ

吉川 わしらが汚れる分には構わんじやろ。大事なのは毛利家じや。毛利は動こうとしたりしたが

穴戸 前にいるわしらの腰が抜けて動けなかつたために毛利は戦えんかつた。戦が終われば秀元殿

吉川 もきつとわかつてくださる

穴戸 わかつてくださらなかつた場合は、勝つても切腹ですよ

吉川 そしたらあきらめて皆で腹を切ろう

熊谷 い、嫌ですよ！勝つたのに切腹なんて。

福原 私も死にたくはない
潔くないのはどちらだ・・・

吉川 だが吉川殿、勝つための作戦というのは生き残るための作戦でなければ・・・

穴戸 わかつておる。お主達を道連れになどは思っておらん。殿の怒りが収まらなかつたら・・・

吉川 わしが責任をかぶって腹を切る。それでいいじゃろ

粟屋 吉川殿、そこまで覚悟を決めておられるのか

吉川 だから、粟屋、福原、穴戸、熊谷、お主等はこの戦が終わるまでわしに協力して欲しい！
これはわしのためではなく、お家のためじゃ。頼むこの通り

深々と頭を下げる吉川

福原 吉川殿、頭を上げてください。いろいろ申しましたが、我々はハナからあなたについていくつもりです。ごいませ

熊谷 ええ？！ そうなの？！（粟屋に口を塞がれる）

穴戸 お家を思う気持ちの強さであなたの右に出るものはいない

吉川 有難う

熊谷 いや、私は今からでも・・・（粟屋に口を塞がれる）

粟屋 頼むぞ、吉川殿。

吉川 ああ

穴戸 しかし、ずっと動かないというのものなかなか難しいのではないか？ 惠瓊殿などが後ろから攻め込んでくる可能性もある

福島 さすがに惠瓊殿も秀元殿の許可なしに我々に攻め込んでくることはないとは思うが

熊谷 殿が許可すれば？

粟屋 ひとたまりもないな

熊谷 ひい・・やっぱり今からでも西軍に・・(粟屋に・・)

吉川 そこで、お主等に協力してもらいたいのだ

粟屋 おお、何でも言ってくれ

吉川 わしはここで軍を指揮して、決して動かないようにするから、お主等はなんとかして戦が

終わるまで殿をなだめ続けてもらいたいのだ

熊谷 なだめるですと！

吉川 ああ、宍戸の言ったとおり一番困るのは後ろから攻め込まれることじゃ。だからお主等は殿が

変な気を起こさぬように・・こう、上手いことやってくれ

福原 それは吉川殿の仕事ではないですか！

吉川 わしはもう行つて駄目だったんじゃ！

福原 なんて逆切れなんですか

吉川 ・・・わしがもう一回行つても逆効果だから、お主等に頼んでおるのだ

宍戸 何と言つてなだめるといふのですか

吉川 それは・・・まあ、上手いこと・・ね

福原 ね、じゃないですよ

粟屋 それをわしらに考えろというのは荷が重すぎるぞ

吉川 わしにだつて重いんじゃ！

福原 だからなんで逆切れなんですか

吉川 ・・・良いか、お主等が協力すれば何だつて出来る。熊谷、矢を数本持つてまいれ

熊谷 矢、ですか？

吉川 ああ、すぐに持つてまいれ

熊谷矢を取りに行く

吉川 殿、あのお話をなさるのですか
あ

熊谷が矢を持つてくる (最低8本)

吉川 若い者は知らんかもしれんが、秀元殿の曾祖父にあたる毛利元就殿がかつて、自分の3人の息

子たちを集めてこんな話をしたのだ・・・

ここにある一本の矢、一本だったら細く簡単に折れてしまう。(矢を一本折る)

しかし、お前たち3兄弟のように3本束に・・・(3本束にしても折れる)

・・・しても折れちゃうのだ。

・・・駄目じゃないですか

・・・それです?

吉川 うむ・・・そう、ここからが大事なところだ。お主等は何と4人いる!

だから矢も4本束にすると・・・(折れる)・・・ちよつと頑張ると折れちゃう!ね!・・・

そしたらもう、全部いっぺんに折っちゃう・・・折れないね。

・・・結局何が言いたいんですか?

だから・・・頑張れ日本。

頑張れるか!(どつく。)

全然駄目じゃないですか!

熊谷が折れる矢を持つてくるからじゃ

私のせいですか?!

逆に不安になつたぞ

格好つけるからですよ。どうするんですか、もうすぐ戦が始まつてしまうのですよ

粟屋
熊谷
吉川
福原
栗屋
吉川
福原

吉川
福原
宍戸

福原

あ・・・始まった

一発の銃声が関ヶ原にこだまする
同時に遠くでほら貝や軍勢の掛け声

第3場

弁士

時間になると辰の刻。現在の時間で言うとう午前8時
2時間近く対峙していた両軍でありましたが、痺れを切らせた松平忠吉と井伊直政が、
先方を任されていた福島正則の間をするりと抜けて前方の宇喜多家の陣へズドンと一発！
これがきつかけとなり、ここに世にも名高い関ヶ原の戦いの火蓋が切って落とされたので
ありました。血気盛んな武将たちは、手柄をたてんと両軍入り乱れての大合戦。
ちよつと合戦の様子を覗いてみましょう

関ヶ原主戦場

家康

本多

撃てえい！（ドーン）撃てえい（ドーン）
三成よ。街道一の弓取りと言われたわたくしの戦、とくと味わうとよい
殿お！大砲など無くとも勝つて見せますとも！たあ

笹尾山。石田陣内

三成

大谷
島

大砲用意、撃てえ！（ドーン）
飛び道具に頼るな。数も布陣もこちらが優位なのだ。家康まで突き進め！
闇雲に突っ込んではいけません！戦力は限られておるのです。
うおお！（槍を振り回している）まどろっこしい。まとめてかかって来い！
全軍前進！黒田隊など恐るに足らず！（おおー等の怒号）

黒田 構え！、打てえ！下がるでない。数の上では島隊など全く怖くはないのだ
撃って撃って撃ちまくれえ！

島 ははははあ！どうした？鉄砲はこんなものか？

黒田 下がるな！よく狙え！家康様！

家康 わかつているとも。竹中軍、加藤軍、細川軍、前進せよ！島軍を囲むのだ

大谷 東軍の意識は左近殿に向かつている。着かず離れずのまま時を待ちなさい！

本多 左近！早くここまで来るがいい！勝負しようではないか

石田 ふははは。その程度でうちの左近を倒せると思つたら大間違ひであるぞ家康

左近 そんな浅知恵で私の上をいこうなどは片腹痛いわ。真の美しさを見せてやる

石田 殿、任せてください。殿が眠くなる前にこの戦終わらせて見せましょう！うらあ！

左近 頼んだぞ左近、吉継。

左近・吉継 御衣！

家康 ふん。今のうちにはしやいでおくがよい。(にやり) 勝った者こそ美しいのだ

弁士 歴戦の猛者たちが一同に介し戦っているのですから、歴史好きはウレシヨン物でしょう

一方、毛利陣内でございませう。

既に戦は始まつておりますが合図である狼煙はまだ上がりません。

狼煙が上がるのを今や遅しと血気にはやり待っている秀元でありましたが、

その傍らには・・・粟屋元豊と熊谷元直が・・・

何か策があるのでございませうか

毛利陣内

秀元・粟屋・熊谷がいる

秀元

よっしゃよっしゃ、始まったでしょこれ。スタンバイオーケーだよこれ、合図が来たらさ、俺がこうやってズバーってポーズするから一気にグイグイ動き出しちゃってよ。

はっ・

粟屋

ちよつとなに粟屋さあ、覇気が足りなんじゃないの

秀元

いえ、そんな事は・・・な（熊谷に）

熊谷

え？ええ

秀元

そ、ならいいけどさ、何で二人ここにいるの？

粟屋

いや、それは・・・・・・・・・・

秀元

何？

熊谷

ちよつと失礼！

熊谷、粟屋を隅っこに連れて行く

熊谷

何かしゃべって下さいよ

粟屋

何を話せというのだ！

熊谷

行けば何とかなるだろうって言ったのは粟屋殿ではないですか

粟屋

何も思いつかなかったのだ！

熊谷

偉そうに言わないで下さいよ

秀元

どしたん？問題ありな感じ？

熊谷

い、いえ、ちよつとした作戦の確認です

粟屋　なあ、我々は何をすればよいのだ？

熊谷　だから、殿が動こうとしたら止めるのです

粟屋　動こうとしてないよな。そもそも合図の狼煙も上がってないし

熊谷　そうですね・・・

粟屋　じゃあ、何もなくていいよな

熊谷　駄目ですよ。それならば狼煙が上がったときに殿がすぐに動けないように、殿の気を逸らしておくのです。

粟屋　なるほど、いいこと言うな

熊谷　私も少しくらいは役に立たないといけませんから

秀元　まだ確認中？

熊谷　間も無く終わります

熊谷　とにかく何でもいいますから秀元殿に話しかけて戦いから気を逸らすんです

粟屋　お、おお

熊谷　行きましょう

秀元のそばへ戻る

秀元　確認しちゃった感じ？

熊谷　ええ・・・ね、粟屋殿

粟屋　あ、ああ。もう完璧です

秀元　そう・・・

粟屋　ええ・・・

3人

.....

熊谷、栗屋になんか喋れのジエスチャー

栗屋、無理、お前なんか喋れよのジャスパ

見守る秀元

秀元 何やっちゃってんの？

栗屋 ふえ？いや何も・・・

秀元 いや、二人ですげえ変な動きしてたし

栗屋 いやあ、どうかなあ、記憶にないなあ

秀元 ありえないし

熊谷 準備体操です！いつ戦いになっても良いように

秀元 へえ、ちよーやる気じゃん

熊谷 も、勿論ですとも

秀元 俺にも教えてよ

熊谷 へ？

秀元 いや、俺も戦いになったら良いところ見せたいからさあ

熊谷 いや、殿は動かないほうが・・・

秀元 何だよ、家来に戦わせて自分だけ座ってるとか嫌なんだよね。俺今回すこぶる体調いいし、

栗屋 先陣切っちゃおうかなくらい思ってるからさ。マジで俺、今回取っかんね

秀元 何をです？

栗屋 家康の首。ズバーって切るね

熊谷 そ、それは頼もしいかぎりでございます。ちよつと失礼

熊谷、栗屋を連れて再び隅へ

熊谷　めちやくちやる気になっちゃってるじゃないですか

栗屋　私のせいではないだろ！

熊谷　何か話してくださいって言ったではないですか

栗屋　私には無理だ

熊谷　吉川殿の切腹がかかっているのですよ

栗屋　わかっているが……

熊谷　何だお主は！

輝元　私は……秀元様のお傍使えてございます

栗屋　聞き耳をたてるな……大事な話の最中だ！あっちに行っておれ

熊谷　そうだ。いま、我々の動きを見て殿はやる気を出してますよね

栗屋　ああ。

熊谷　ではそんな感じで逆に気を逸らすというのはどうですか？

栗屋　え？

熊谷　だから、ジャスパーですよ

栗屋　ジャスパー？

熊谷　そう、ジャスパーです

栗屋　ジャスパーってなんだ？

熊谷　は？ジャスパーもしらないんですか？

栗屋　すまん……教えてくれ

熊谷　はあ……いいですか、ジャスパーって言うのはこうやって身振り手振りで……こう……

栗屋　ジェスチャーだよ！

熊谷　そう！それ……ジェスチャー。

秀元 おい、大丈夫なん？
熊谷 ええ。大丈夫でございます
秀元 あのさ、さつきも聞いたけどさ、二人とも何でここにいんの
栗屋 いや、あのーいやー・・・

人の外から争う女の声がする

きく (オフ←) だからさつきから何回も言ってるし
清光院 何ですか！そのものの言い方は
きく 関係ないし
清光院 もう我慢できません！今日という今日はつきりさせてもらいます。秀元！
きく 上等だし

栗屋 あの声は・・・
熊谷 何故ここで、あの声が
秀元 ちよー嫌な予感なんですけど

清光院 秀元、秀元はどこにいるのですか！

秀元 やばいし、お前ら何とかしろよ
熊谷 何を仰いますか

清光院ときくが入ってくる

清光院 ここにいたのですね。先程から呼んでいるのに何故迎えに来ないのですか

秀元 あー・・・

清光院 養子とはいええ、私はあなたの母親なのですよ！

秀元 いや、てか今いくさ中だし・・・

清光院 てか？だし？

秀元 いや、戦中でありましたので、出迎えとか出来ないつつーか

清光院 つーか？！

秀元 出来なく、申し訳ありません

清光院 はい、はじめから。

秀元 現在、戦の最中でありましたので、お出迎えが出来ず、申し訳ありません・・・母君

清光院 よろしい

秀元 (輝元をけり倒して) お前、傍使えなら氣い利かせて出迎えくらいしろよ

輝元 わ、私でごさいますか？！

秀元 あたりまえだろーよ、使えねーな

清光院 秀元！

秀元 はい、申し訳ありません

さく いいよ、ひでもつちゃん。いつも通り話せばいいじゃん

清光院 何ですかその言葉遣いは！

さく 普通に喋ってるだけだし

秀元 母君、何をしに参られたのですか？

清光院 この小娘の態度が気に入らないのです！

さく 小娘じゃないし

清光院 ほらーごらん、何かあるたびに私に突っかかってくるのです。この私にですよ

きく 何様だつーの

清光院 あなたの旦那様の母ですよ。つまりあなたの母親です！

きく そういうのあんまり気にしないんだよね

清光院 しかもこの言葉遣い！ああ怖い！秀元、母親がこんな扱いを受けているのに見過すのですか

さあ秀元、この小娘に言つてやりなさい。毛利家を出るか、態度を改めるか

ちよーきもい。ばばあ

きく ばばあではありません！

清光院 母君、まさかそれを私に言わせるにわざわざいらつしやつたのですか

秀元 その通りです

清光院 いま戦の真つ最中なのでありますよ

秀元 わかつております

きく ひでもつちゃん、いいよこんな妖怪放つといて

清光院 その言葉遣いと態度を改めなさいといっているのです！

秀元 あーあ、わかりましたよ。きく、ちよつとこつちへ来い

秀元、きくを粟屋たちの逆サイドの隅へ

中央に清光院をおいて、かみしもでひそひそ話し

粟屋 相変わらず仲悪いんだな

熊谷 ここに来るまでずつと言い争っていたのでしょうか・・・

粟屋 喧嘩しながら来たつてことはずつと一緒だったのか

熊谷 逆に仲いいですね

きく
秀元 ねー、あの妖怪ばあ叩っ切っちゃってよ
無理だよ。逆に俺殺されるし
大丈夫だよ。ひでもっちゃん、ちよ強だから
きく
秀元 そういう意味じゃないって

栗屋 ずつと喧嘩してくれんかなあの二人
熊谷 そうだ
栗屋 あ？
熊谷 これはチャンスかもしれない
栗屋 どういうことだ？

秀元 なあ、きく。俺今すげえ大事な場面でチャンスなわけよ
きく うん、がんばってね
秀元 だからさあ、他の事考えられないっていかさあ
きく それ、きくの事言ってるの

熊谷 あの二人がここでずつと喧嘩をしていれば、殿は戦どころではなくなるはずですよ
栗屋 おお！なるほど
熊谷 殿の気を逸らすのはそれしかありません

秀元 いや、今の俺はそれしかないっていうか
きく きくの事嫌いになったの？！
秀元 ちげーって。これは俺の将来のためなわけよ

熊谷 毛利家の将来のために

秀元 俺の将来イコール、おまえの将来でもあるわけよ
熊谷 毛利家の将来イコール、粟屋殿、我々の将来でもあるわけですから

秀元 ここは何とか二人とも仲直りしてさ

熊谷 ここは何としても二人を喧嘩させてですね

秀元 形だけでもいいから

熊谷 形だけでも我々は二手に分かれましょう

秀元 いいな。頼むよ (同時←)

熊谷 いいですね。頼みましたよ (同時→)

きく わかった。きく頑張る (同時←)

粟屋 わかった。俺頑張る (同時→)

清光院 何をひそひそやっているのですか！

秀と熊 はい申し訳ありません

かみしもお互いに目が合う

秀元

お前らまだいたのかよ

熊谷

ええ。大変そうでしたので・・・

秀元

行くぞ (同時←)

熊谷

行きますよ (同時→)

きく、粟屋、同時に了解の合図

秀元を中心に【きく・熊谷】【清光院・粟屋】の配置になる

秀元

おほん！母君、きくとの話し合いの結果、きくは態度を改めて、今後母君への接し方及び

清光院

言葉遣いを改善するように努力するとの結論に至りました

きく

ほう、やつとわかってくださったのですね

秀元

ええ・・・今まで・・・今までの無礼、お許しください

清光院

では、ここは危険ですので早くお帰りに・・・

きく

きく殿、秀元の顔もあるでしょうから、その言葉信じますが、今後私からの信頼を得なければ

清光院

これから先々の振る舞いの中で・・・

きく

信頼とか別に要らないし

清光院

なんです！

きく

いえ、何も申しておりません

清光院

・・・何か良くない言葉が聞こえた気がしましたが

きく

気のせいでございます、清光院様

清光院

そうですか、では話の続きですがそもそも毛利家というのは鎌倉幕府まで遡る大江家の由緒

秀元

清光院

秀元

輝元

秀元

正しい家系でして、あ、私は豊臣家なんだけど……
母君、その大切なお話は戦が終わってからゆつくりと聞かせていただきますので、今はまず
非難をなさったほうが良いかと
そうですね。男の仕事場に女がいつまでもいてはいけませんね
ええ。ですからこれで……
意義あり！
は？

輝元、熊谷が言いましたのジエスチャー

熊谷

清光院

熊谷

清光院

熊谷

秀元

熊谷

秀元

きく

熊谷

きく

秀元

熊谷

え?!なんで?!いや……あの……せ……清光院様は……勝手すぎると思いま
いま、なんと申したのです?
せ、清光院様は勝手すぎると思います!
なんと……
「きく様にもっと自由に喋らせてあげてもいいと思います
熊谷!お前何言って……
だってそうではありませんか!恋愛というものは自然なお互いを見せ合ってこそ成り立つの
です。秀元殿も、きくさまの飾らない有りのままを愛されているのではないですか
ま、まあ
わかってくれるわけ?!
もちろんですとも
ちよーうれしー
でも、ここには……母君の前だし
場所や相手など関係ありません!ここは清光院様に「これが俺のラブスタイル」だと

清光院

「これが自分の愛すべき人」だと、自信を持って主張しなければならないのではないですか！

熊谷

だまらっしゃい！秀元殿、それこそが夫、いや、男という者ではないのですか！

秀元

そうだよな、お前いいこと言うな

熊谷

もったいないお言葉です（やりきってガクブル）

秀元

さく、ごめんな。おれ間違ってたよ。

さく

ひでもつちゃん

秀元

俺お前のことチョー大事にすつから

さく

うん

秀元

つて事で母君。自分は有りのままのさくを愛してますんで、これ以上はさくにとやかく

清光院

言わないでください。

秀元

秀元！父上が黙っておりませんよ！

清光院

誰に言われてもこのスタイル変える気ないです。それが・・・愛でしょうよ！

秀元

秀元・・・

輝元

さ、わかつたらこのまま・・・

秀元

意義あーり！

秀元

・・・は？

輝元、粟屋が言いましたのジェスチャー

粟屋

はあ？！・・・あの、さく殿はもつと謙虚になるべきだと思います

秀元

お前さあ、いま言ったこと・・・

清光院

そう思うでしょう！

粟屋

ええ。

清光院

ほれ、きちんとした常識を持った人間は同じ意見です

秀元

いや、俺は何を言われても・・・

粟屋

それ！その甘さがきく殿を増長させるのです

きく

増長とかしてないし

秀元

似たようなこと恵瓊に言われたけど

粟屋

ちよつとお前うるさい。いいですか、今は武士の世の中なのです。武士の世の中というのは

女性性は黙って男の三歩後ろを付いてくるものなのです。前田利家殿の奥様のまつ様をお考え

下され。夫をたて、自己主張しすぎず、それでも影だけにならず夫を照らす光となる。

それが武士の奥方というものです。

そんな事出来ないし

出来ないのではありません。やっついていないのです。少しでもやろうと努力をしましたか？

きく

いや・・・ひでもつちやんがやらなくてもいいって言うし

やらなくていいとは言ってないけど

秀元

清光院様は未熟であるきく様から嫌われることを覚悟して、教えてくださっているのです

清光院

別に嫌われようとは・・・

粟屋

それなのに何ですか、その言い草は！

きく

言い草って・・・

粟屋

秀元殿、清光院様はきく様がこれから先々恥をかかないようにしてくださっているのです。

きく様の恥は秀元殿の恥。秀元殿の恥はの毛利の恥ですぞ！

母君のお言葉にそこまでのおかんがえがあつたとは・・・

・・・そうじゃ、わらわは毛利のためを思っていたのですよ

ただのウサ晴らしっばいんですけど

まだわからないのですか！わたし思いが

思いとかないくせに

きく

清光院

きく

秀元

清光院

きく

清光院

どの口が言うのですか

きく

このくちですけど・・・

きくと清光院、再び争いを始める。間に入る秀元。

粟屋と熊谷、離れて健闘を称えあっているところへ秀元が

秀元

お前ら責任取れよ

熊谷

責任ですか？！

秀元

ややこしくすんなよ

粟屋

我々は素直な気持ちを申し上げただけでございます

秀元

それが余計なことだろ！

粟屋

いえ、どちらも秀元様と毛利家のことを心から考えて申し上げます

秀元

・・・なんだよもう

きく

結局さあ、あんたの言ってること筋が通ってないんだよね

清光院

あなたの方がよっぽと通ってないでしょ

きく

通ってますー

清光院

どの程度通っているというのですか？

きく

こうやって背筋ピンやったとときくらい通ってます

清光院

あなたがそうならば、わらわはあそこに立ち上っている煙くらい通っております

きく

いいえーそんなことありません

清光院

そんなことあります

きく

ほら、風ふいて曲がった。所詮その程度です。早く腰とかもああいう風に曲がって

死んでくださいー

秀元 死ねは言い過ぎだつて。腰曲がれはいけどさあ
清光院 それも駄目です！
秀元 はい、そうですね……つて煙？！
清光院 そうですあの煙のように
秀元 狼煙じゃん！

輝元以外狼煙を確認しに陣幕外へ出ていく
一人残る輝元

輝元 大変そうじゃな！

雲丸が出てくる

雲丸 他人事ではございませんよ。一体何をなさりたいのですか
輝元 引つ掻き回したら面白いかなーつて……

雲丸 輝元様！
輝元 だつて、わしも人の事は言えんが何故清光院がここにおるのだ！わしに何も言わんで……
雲丸 ずるいじゃないか

輝元 それならば始めからご自分で指揮をなさればよかつたではありませんか
雲丸 いや……今回は手を出さんことに決めたのじゃ
輝元 では……

雲丸 でも様子は見ていたい
輝元 ……ご自由にどうぞ
雲丸 ……ご自由にやっつとる。……だが、わしの判断で少々周りが混乱しておるようじゃな
輝元

雲丸 確かに

輝元 この戦は毛利にとって将来を左右する大事なものになる。下手をすれば毛利は滅ぶかもしれん

雲丸 ならば・・・

輝元 だからこそ、わしは口を出さん。将来のことはこれからを担うものが決めればよい。
わしは見守るだけじゃ

関ヶ原主戦場

左近 どげどけい！槍の餌食にするぞ！

黒田 撃てえい！

矢が飛ぶ（ひゅんひゅん）左近に当たる

左近 ぐあ！

黒田 よし！一斉に撃つのだ

石田 左近！

左近 これしきの攻撃効かぬわあ

本多と左近が出会う

本多 島左近！

左近

本多忠勝！

本多

一度おぬしと手合わせしてみたかった

左近

お相手いたそう

二人

全軍手出し無用。行くぞ！

槍の戦い。

左近

(戦いながら) 殿、今がチャンス！待機している軍を一気に攻め込ませてください。

石田

わかった。今だ吉継、狼煙を上げい！松尾山の小早川、南宮山の毛利に知らせるのじや

大谷、合図を受け狼煙を上げる遠くを見つめ、

大谷

いけませんぞ、秀元殿。

左近

よし・・・行くぞ！東軍を叩き潰すのだ！

黒田

島左近負傷！本田殿と一騎打ちの最中でありませぬ。家康殿、攻め時ですぞ

家康

心得た！黒田、毛利はいつ動くのだ？

黒田

間も無く動くものと思われませぬが・・・

家康

まあ良い。それはそれで好都合です。黒田、吉川に使いを走らせなさい

黒田

使いでございませぬか？！

家康

ここで気変わりされぬように念を押しに向かわせよ

黒田

いや、しかし・・・

家康

どうした？

黒田

今は攻め時でございませぬ。一騎たりとも無駄には出来ませぬ。

家康

人手がないと申すのか

黒田

左様でございます

家康

ならば仕方がない・・・サブロウ、行つて参れ！

サブロウ

(オフ) 心得ました！うおおお

第4場

弁士

それぞれがそれぞれ思惑を抱えて合戦は進んでいくのであります。

さて西軍が狼煙を上げる少し前、まさに粟屋と熊谷が秀元の気を逸らそうと、刀も抜かずに戦っているその頃

まわりの戦の喧騒もさておき、吉川陣内では奇妙奇天烈な出来事が起こったのであります

第3場と平行した時間

吉川陣内。吉川が一人でなやんでいた

吉川

んー・・・どうしたもんかのー・・・

なだめろといつてみたものの、不器用な者たちばかりだからの
粟屋と熊谷は大丈夫じゃろうか・・・

遠くで戦の音がする

吉川

西軍が優勢か・・・意外と早く合図がくるかもしれないの・・・
んー、まずい。何と言つて殿をなだめさせれば良いか全然思いつかん

福原が入ってくる

福原 吉川殿！どうですか、何か思いつかれましたか？

吉川 まだじゃ！

福原 早くしないと狼煙が上がりますよ。

吉川 わかっておる

福原 実際に行くのは我々なので、きちんとした理由を考えてくださいかね
吉川 だから、わかっておる！

穴戸が入ってくる

穴戸 吉川殿！どうですか？

吉川 お主もか・

穴戸 下手な理由をもって秀元殿の下へ行ったら、切られる可能性だってあるのだ。不安にもなる

吉川 何故私がそれを考えなければならぬのだ

福原 言いだしつべじやありませんか

吉川 お主等で上手いことできんのか

穴戸 いや、そういう責任重そうなのはちよつとね・・・

吉川 お主等も考えんか！

福原 吉川殿の命をかけた作戦なので、安易な考えでは動けませんよ

穴戸 そう。吉川殿もご自分の指揮で失敗したならば、気持ちよく腹も切れるでしょう

吉川 何で切腹確定みたいに話をするのじゃ

福原 そうならぬために、考えてください。狼煙が上がったときに我々が動かなくても秀元殿が

お怒りにならない言い訳を

吉川 あー！わかっておるわ。考えるから出てっくれ！

宍戸と福原を追い出す

福原 あまり時間もありませんからね。

吉川 うるさい！わかっておる。凄い言い訳を考えてやるわい
信じてますよ

吉川 ああ、大船に待ったつもりで待っておれ

一人になる広家

吉川 ふー、とは言ったものの、秀元殿が怒らない言い訳など思いつかん

腹をなでる

吉川 やっぱり切るしかないのかの・・・

手首に巻いてある数珠に目が行く

吉川 お容。お主だったら何か閃くか？

もうすぐそっちに行くかもしれん。待ってておくれ

お容の声がする

お容 (オフ) 待ちませんよ
はて、いまお容の声がしたような気が・・・むこうの世界が近づいておるのだろうか
お容 (オフ) あなたはまだこちらに来てはいけません
吉川 やはりお容の声か?! お容、ならば教えておくれ。わしは一体どうすればよいのじゃ

お容が姿を表す

お容自信も驚いている様子

お容 広家様・・・
吉川 容・・・お容なのか
お容 ご無沙汰しております
吉川 本当にお容なのか? 生きておったのか・・・
お容 いいえ。私は間違はなく死にました
吉川 でも、ここにおるではないか
お容 私も不思議に思っております。何故ここにいるのか・・・
吉川 広家様の声が遠くから聞こえたと思っただけでお返事をしたらいつの間にか・・・
お容 そうかそうか・・・わしの思いが天に届いたか・・・
吉川 お会いしようございました
お容 わしも、会いたかったぞ

抱擁

お容 よほどお困りのことがあるのですか?
吉川 何故そんな事を?

お容 死んだ私をあの世界から呼び出したくらいですから。あなたは行き詰ったときにはいつも

私のところにやっついていらっしやいました

すまん。安らかに過ごしていたのであるう？

ええ。でも少し退屈していたところでもありました

吉川 そうか。不便はないか？

お容 ふふ、私は天国にいるのですよ。こちらの世界よりずっと幸せに過ごしております

吉川 そうか、ではわしもそろそろそちらに行くのでしょうか・・・

お容 いけません！

吉川 なげだ。わしはいいないほうが良いのか？

お容 いいえ。切腹などで命を落とされた方々は、決して私どもがいる場所へは来れないのです。

天国とは自ら進んでいける場所ではないのですよ

吉川 そうか・・・

私はいつまでも待つておりますから、しっかりと生き抜いてからいらっしやってください。

吉川 お容がずっとこちらにいても良いのだぞ

お容 そうしたいのですが、死んだ者がこちらの世界にいたらお化けと呼ばれるのですよ

お化けでも良いではないか

いつかは帰らなければならぬはずですよ。その前に・・・広家様のお悩みを解決してしまいま
しょう

吉川 死んでまでも迷惑かけてしまつてすまん

お容 迷惑なんてとんでもない。あなたの妻であった少しの間、あなたに相談されるのはとても楽し
かったのですよ。それに、おかげさまでこちらに帰つてくれました

できれば、こんな戦場（いくさば）でないとここで会いたかつた

吉川 戦場・・・なのですね。ここは。道理で・・・（周りを見る）

吉川 ああ。
ちよつと、失礼しますね

お容何かを感じるように辺りを見廻す

お容 なるほど

どうしたのだ？

吉川 秀元の坊ちゃんの件ですか。ふふ、随分大きくなられて

わかるのか？！

お容 死ぬと不思議な力が宿るようです

そうか・

お容 つまり、あなたは動きたくない。だけど秀元坊ちゃんのご機嫌を損ねるわけにもいかないと

まあ、平たく言うところじゃ

吉川 ・・・不思議なものじゃ。お主がおるとそれだけで元気になる。

お容 そんなお顔をなさっているから気が沈むのです。困ったときこそ笑顔でございますよ

そうか。笑顔じゃな

お容 そう。笑ってください

そうか？

吉川 もつとです

そうか？

お容 もつともつとです

そうか

お容 いいですよ。いつもそのお顔をなさってくださいいな

福原が来る

福原 何むちやくちやにやけてるんですか

吉川 ふぁ！何しに来おった

福原 何って様子を見にまいったのです。どうですか？閃きましたか？

吉川 安心せい。心強い味方もやってまいった

お容 笑顔笑顔

吉川 そうか（笑顔）

福原 何にやけてるんですか。で、味方とは誰ですか？

吉川 そうか、お主は初めて会うかの？お容だ

お容 お容でございます

福原 ・・・どこですか？

吉川 ここにおるではないか。お容だ

福原 ・・・

お容 お初にお目にかかります

福原 ・・・お容？

吉川 ああ。お容だ

福原 それは、吉川殿の奥様の容光院さまの事でしょうか？

吉川 ああ。その通り

福原 ・・・六戸殿！吉川殿が壊れました！

福原、六戸を呼びに出ていく

吉川 まて！わしは正気だ！・・・なんなのだ。あの態度は・・・

お容　もしかすると、広家様以外には私の姿は見えないのかもしれませんが

吉川　そんな馬鹿なことが。こんなにはつきり見えておるし触ることもできるのに

お容　ほら、笑顔笑顔

吉川　おお。そうだったな

福原が宍戸を連れてくる

福原　こっちです

宍戸　どうしたというのです

福原　吉川殿かまた壊れました

吉川　確かに気持ち悪いにやけ方をしているが・・・

お容　わしはいたって正常だ！ほら宍戸、お主は会ったことがあるな。お容だ

お容　ご無沙汰しております

宍戸　・・・お容？

吉川　お主は見えないなどとは言わんじやろ？

福原　容光院さまのことらしいのですが

吉川　ほら、ここに。こんなにはつきり見えておるじやろ！

宍戸　・・・吉川殿！しつかりするのです！逃げたいのはわかる。わかりますが、容光院殿は9年前

お容　にお亡くなりになられたのですぞ

吉川　見えないものが見えてしまっている・・・重症ですね

お容　やはり、広家様にしか私は見えないようですね

吉川　そんな、ここにほら、こんなにはつきりと

宍戸　これは末期だ

福原　わしは正常だと言っているのだ。お主等には見えないものが見えとるだけじゃ

それを正常とは言わないのです

吉川 正常だ。確かにここにお容がいるのだ
お容 余裕をお持ちになつて。笑顔ですよ
吉川 (笑顔で) えへ
福原 薬でもやりましたか？
吉川 やつとらん！
穴戸 この大事なときに指揮官が壊れてしまった
吉川 壊れとらん！ああ・・・
お容 別にいいではありませんか。他の方に見えなくても問題ありません
吉川 それはそうだが、せつかくお容が帰ってきたというのに・・・
お容 私は、広家様とお話が出来れば十分ですよ
吉川 そうか？お容がそういうなら別に構わんが・・・
穴戸 やはり見えない誰かと話している
吉川 もういい。お主達はわからなくて
福原 わしはわしでお容と楽しくやるもんね
穴戸 楽しくやつてゐる場合ではないのですよ！
吉川 そうです。壊れてしまつても片付けることは片付けていただかないと
お容 ええい、わかつておる
吉川 広家様、鉄砲をお1つお持ちいただけませんか？
お容 鉄砲とな？
吉川 ええ
お容 何か思いついたのか
吉川 ふふ、さあ、どうでしょうか
お容 おい福原、鉄砲を持ってまいれ
福原 鉄砲でございませうか

吉川 ああ、早くせよ
福原 はい！

福原鉄砲を取りに行く

吉川 お主黙っておれ
お主黙っておれ

福原鉄砲を取って戻ってくる

福原 持つてまいりました

吉川 よし、貸すのだ。で、これからどうするのだ？

お容 そうですね・・・では、泥を中につめてください

吉川 それでは使い物にならなくなってしまうのではないか

福原 いえ、使えますよ

吉川 黙っておれ。いいのかお容？

お容 ええ、たつぷりつめてください

吉川 わかった

吉川、地面の泥を鉄砲に詰め始める

福原 ちよつと吉川殿、何をなさっているのですか！

吉川 大事な武器ですよ

お容が良いと言っているのだからいいのじゃ

遂に見えない何かに操られ始めたか・・・

吉川

福原

お容

吉川

福原

吉川 否定はせん。さあ、詰めたぞ
お容 では、それを・・・

西の空から煙が上がる

あ！あれ！

・・・狼煙が

西軍からの合図です

吉川殿！は頼りにならんし・栗屋と熊谷は殿の気を逸らしてくれているだろうか
早くしないと、殿が動き始めますよ

お容。

慌てないでくださいな。私の言うとおりにして下さいね。まずは・・・笑顔

どうか？

そうです。それから構えて。

吉川銃を構える。銃口は宍戸と福原のほうへ向いている

福原 吉川殿！お気を確かに

宍戸 正気に戻られよ！

吉川 それで？

お容 パーンと

福原 吉川殿――

一発の銃声が響き渡る

第5場

毛利陣内

3場のあと。

陣内には秀元が一人

清光院がやって来る。

清光院

秀元

清光院

秀元！動かないのですか

粟屋と熊谷を伝令に行かせましたので、間も無くとは思いますが
動く気配が無いではありませんか

きくが出てくる

きく

秀元

きく

秀元

きく

秀元

きく

秀元

きく

清光院

秀元

ひでもつちゃん。チョー暇なんだけど

出てくんなって

なにその言い方。どいひーなんですけど

危ないから奥にいろって言ってんだよ

大丈夫だよ。ひでもつちゃんチョー強だから

俺じゃなくてお前が危ないんだよ

ひでもつちゃん守ってよ

いや俺もうすぐ戦い行くし

えーやだー

いくさの場で殿方を困らせるのはありません！

それは母君にもあてはまるお言葉かと・・・

清光院

私はきちんと節度をわきまえています！

きく

柵に上げんなよ。ちよーBBANなんですけど

清光院

ビー、ビー、エーとはなんです

きく

ちよーばばあの略ですけど

清光院

また！この小娘！

秀元

略せてないから・・・いいから、二人とも奥にいてください

秀元、二人をかみしもの奥に押し込む

秀元

めんどくせえなー。

全然うごかねえし・・・

宍戸が入ってくる。手には壊れた銃が

宍戸

失礼致します

秀元

宍戸か。お前えらなんでうごかねえんだよ

宍戸

そのことでお話があつて参りました。

長東がやってくる

長東

秀元殿！狼煙が上がっておりますよ

秀元

わかってんよ

長東

はやく動きませんと

秀元

わかつてるけど前が詰まってるんだよ

長東 前とは・・・吉川軍のことですか？
秀元 ああ。
長東 恵瓊殿もいらだち始めておりますよ
秀元 穴戸、どうなつてんの？
穴戸 はい。まずはこれをご覧下さい

穴戸 壊れた銃を差し出す

秀元 壊れてんじゃない
長東 これはひどい
秀元 これが何？
穴戸 はつ、狼煙が上がりましたので早速出陣をと思ったのですが、兵の一人が武器の調子を見るために1発試し打ちをしたところ暴発いたしました・・・
長東 それは大変なことで。兵は死にましたか？
穴戸 いや、自業自と・・・いや、多少顔は焦げましたが命に別状はないようで・・・
長東 よかった。大事な兵士ですからねー
秀元 それで何よ？だから動かないわけ
穴戸 左様でございます。
秀元 は？ふざけんなよ。何で銃が一個駄目になったくらい動かねえんだよ。そんなもん放つといてさつさと動けよ
長東 そうですよ。早く動かないと・・・
穴戸 お待ちください
秀元 待たねえよ。てめえら腰抜けかこら
穴戸 お待ちください！事態はそう単純ではございません

秀元
なんだよ

穴戸
今まで使つてもいい銃が暴発することなどありましたでしょうか？

秀元
おかしいとは思いませんか？

長東
は？

秀元
別に思わないですけどねー

穴戸
手入れが悪いんだろうよ

長東
いえ、兵たちは普段から吉川殿に「いつ如何なるときに戦になつてもいいように手入れだけは

穴戸
欠かすな」と耳にしたことが出来るくらい言われております。と、言うことは考えられることは……

長東
ことは、何ですか

穴戸
あらかじめ銃に仕掛けがあつた可能性があります

秀元
どういふことよ

穴戸
何者かが兵士として潜り込み、銃を使えないようにしたのですよ。

秀元
やばいじゃん

穴戸
やばいのです。吉川軍は全ての銃を調べている最中でありまして

長東
動かない理由はそれでしたか

穴戸
はい。私たちも一刻も早く前方の池田軍を蹴散らし、徳川軍に一泡吹かせてやりたいところで

長東
はありますが、やはり銃は大事でありますゆえ……

秀元
そうか……いそげよ。終わり次第全軍突撃だかん

穴戸
心得ております。しかし！

長東
まだ何かあるのですか？

穴戸
冷静かつ狡猾と呼ばれた吉川軍がこのような畏に嵌められているのであります。

秀元
毛利軍にも同じ賊が入っているとは考えられませんでしょうか？

秀元
おお。有り得るね

穴戸
すぐにすべての銃を確認、いや、できることなら試し打ちなされるのが良いかと

長東 ええ。そうした方がいいですよ

長東殿、何を落ち着いていらつしやるのです。長東軍にも異が仕掛けられている可能性が
あるのですよ

長東 え?! そうか

長東 ええ。安国寺軍、長宗我部軍もすぐに確認したほうが良いでしょう

長東 これは大変だ・・・では、自陣に戻ります。安国寺と長宗我部軍には私から伝えておきましょう
では、御免

長東、出ていく

長東 毛利軍もお早く。

秀元 おおよ。

鉄砲隊に告ぐ! 今すぐ全ての銃に弾をこめよ! 中に何も詰まっていないことを確認しろ!
種火用意! 空に構え!・・・打てえ!

第6場

関ヶ原、主戦場

東軍、西軍が入り混じっている

遠くで一斉射撃の音

殿、毛利軍より発砲音！

ついに動いたか・・・家康め、これで終わりだ

三成

左近

黒田

家康

黒田

家康

黒田

家康

黒田

家康

家康殿、毛利軍に続き吉川、安国寺、長宗我部、長束軍も発砲したもようなんだと？誰と戦っているのだ
ここからは見えませぬ
西軍に加担しているわけではなからうな？
その報告は来ておりません
仲間割れでも始めたか・・・
使いは送られたのですか？
ああ、サブロウをな
さ、サブロウつて・・・あの・・・あのサブロウでございませうか？！
他にどのサブロウがいるのだ

大谷

左近

三成

発砲音？！やはり毛利は動いてしまいましたか・・・

東軍は依然前進を続けてまいります

後方から毛利が攻めているはずではないのか

左近

いまだ確認できません

大谷

まずい。今毛利が動いては・・・

三成

今しばらく持ちこたえよ。毛利の次は小早川が動く！そうすれば東軍は終わりだ

左近

心得ております！

三成

大谷軍！もつと攻めぬか！

大谷

わかっておりますが・・・

三成

どうしたのだ？

大谷

いえ・・・何でもありません

大谷、何かを思い走り去る

吉川陣内

吉川とお容がいる

お容

あはははははは

銃を暴発させた際に黒くなった吉川

吉川

笑い事ではないぞ。次からはちゃんと説明をしておくれ

お容

時間が無かったものですから。失礼いたし・・・あははははは

吉川

お容が喜んでくれるならば良いか・・・

お容

笑っている場合ではありませんね。次の作戦を考えないと

吉川

そうだな。銃に問題がないことはすぐにはばれてしまわず

声

おおい！

鷹が入ってくる

吉川

鷹

お容、なんか来たぞ

なんか来たぞじゃねえよ。ここの責任者出せよ

責任者？

ここで一番偉い奴出せ行ってんだよ

一応この陣の中では・・・わしじゃが？

ああそう。名前は？

吉川じゃ

晃司？

広家。

顔黒いよ

放つとけ

どしたの？

いろいろあったんじゃ

ああ！吉川広家ってあんたか！まあいいや。吉川さんさあ、今撃ったでしょ？

え？

銃撃ったでしょって聞いているの

ああ。でも上にじゃぞ

上にね。OKOK。ちよつと・・・ここ立ってて

ここか？

もう少しこつち。ああ、行き過ぎ。そう、そこ。そこ立っててね

どうりやつ！

ドロップキーック

吉川

何をするか！

鷹

何をするかじゃねえよ。死ぬとこだ！俺が気持ちよく飛んでたらいきなりぶわあーつ来てうおーつてなつて、逃げたら、そこからもばあーんて来て、逆からもばあーんてきて……もう、もう泣きそうだよ！

吉川

……お前は誰じゃっていうか……なんじゃ

鷹

見てわかんたろ。鷹だよ鷹。知ってる鷹？

吉川

加藤なら……

鷹

加藤とか言ってるんじゃねえよ。結構気にしてんだよ。前回も同じネタやってんだよ

吉川

鷹が何のようじゃ

鷹

俺はなあ、家康さんの鷹だ。サブロウってんだよ

吉川

家康殿の？！

鷹

そうだよ。何か文句あんのか？

吉川

文句はないが……

お容

いきなり蹴るとは無礼ではありませんか

吉川

お前黙ってるよ（打撃）

鷹

お容に手を出すな！

吉川刀を抜こうとする

鷹

お、抜くの。抜いてもいいけど俺飛ぶよ。そしてお前を狩るからな

吉川

飛ぶのは卑怯じゃろ

鷹 卑怯じゃねーよ。こつちは素手だぞ
 吉川 飛んだら撃ち殺してやるわ！
 鷹 上等だよ・・・
 お容 待つてくたさい・・・サブロウさん。私が見えるのですか
 鷹 おおよ。鳥はな、前も後ろも上も下も、もう360度全部見えんだよ。鷹なめんよ
 お容 なめてはいませんけど・・・
 鷹 女とか関係なく行くからな！
 お容 そういうことではなく
 鷹 人間じゃないってか？
 お容 !わかるのですね
 鷹 だから鷹なめんなつて。狩るぞ
 吉川 何故見えるのだ
 鷹 すげーからだよ
 お容 本当に凄いですね
 鷹 ・・・・照れるじゃねえかよ
 吉川 いや、ありがとう！見えるんじやな。わしはおかしくなつておらなかつた！
 鷹 わしの気持ちが変わる相手に出会えた。有難う！
 お容 お礼言われる意味がわかんねえけど・・・
 鷹 お前・・・きつといい奴だな
 お容 広家様はいいお方です
 鷹 (お容に) お前もな。ああ、そうだ。確認すつけどお前らどつち？
 吉川 は？
 鷹 何軍？西？東？
 吉川 一応・・・東のつもりじゃが・・・

鷹 だよな？東だよな

吉川 ああ

鷹 ヘイヘーイ

鷹とハイタツチ

鷹 だよな。お前ら最高だよ。家康さんをよろしく頼むな

吉川 あ・・ああ。サブロウよ。お主は何故こんな危険な戦場を飛んでおったのじゃいやあ家康さんに言われてさあ、普段は兎とか狩つてりゃいいんだけどさあ、こういう戦のときは俺も狩りだされるわけよ。

鷹 今のわかる？普段は狩る側なのに狩りだされちやうと掛けたの

お容 では、あなたは東軍からの使者というわけですか

鷹 おお

吉川 鷹まで操るとは

鷹 操られてねえよ。俺ら相棒だからさ。俺は家康さんの為に動いて、家康さんは俺に飯を喰わせる。俺が動かなきや飯も出てこない。ギブ&テイクの関係だな

お容 それを操るといのです。

鷹 ちげえよ。相棒だよ。

吉川 もし西軍に付くと言ったらどうするつもりじゃ？

鷹 そんな時は残念だけど狩るしかないな

お容 あの、狩るとは一体どうやるのでしょうか？

鷹 お？見たい？

お容 まあ、多少興味はあります・・・

鷹 ぶあつと飛んで爪でガツてやるんだよ

お容
鷹 ぶあつとガツですか？
そう。こーやってこー！

サブロウ、ジャンプして吉川にアイアンクロー

吉川 痛いイタイイタイイタイイタイ！

鷹 うおらあああ！

吉川 痛いイタイイタイ

鷹 どうだこらあ！

吉川 ギブギブ

鷹 東軍？東軍？

吉川 はじめから東軍だと言っとるだろ

鷹 ああ、そっか

鷹離す

鷹 まあ、これが鷹狩りだね

お容 何と恐ろしい・・・

鷹 わかっただろ？。下手打つと俺も飯食えないからさ。まあこつちも必死なわけよ

お容 じゃあ、俺まだいくところあるからこれでな

鷹 どちらへ

お容 小早川のことだよ。あいつもさあ、東軍になるって行つたのにまだ動かないからさあ
ちつと狩りに行くんだよ。あ、毛利軍は別に西軍に味方さえしなければ動かなくても
いいって言つてたよ。じゃあ、急いでるから。また会おうぜ！

鷹出て行くとする

お容

待つてください！

なんだよ止めんなよ。わかるぜ、別れてのはいつだって辛いもんだからさ

俺も昔あいつと別れたときは辛かったよ・・・

お容

そうではなく、歩いて行くのですか？

鷹

え？

お容

鷹なんですから飛べばよいのでは？

鷹

うるせえな！いろいろあんだよ。

お容

ふーん

鷹

出てからぶあつと飛ぶんだよ

吉川

へえー

鷹

本当だからな。出てから飛ぶんだからな。

鷹出ていく

入れ違いに福原、栗屋、熊谷が入ってくる

栗屋

吉川殿！栗屋隊試し打ち完了

熊谷

同じく熊谷隊も完了です。

福原

福原隊も同じく

おそらく他の軍の隊も完了しているものと思われま

次の手を打ちませんとな

吉川

そうじゃな

福原 正気に帰られましたか？

吉川 始めから正気じゃ。

粟屋 いやしかし、銃の不調を原因にするとはお見事でしたな

吉川 いやそれはじゃな・・・

お容へ目線をやるがお容は笑っている

吉川 まあな

熊谷 吉川殿が壊れたと聞いておりましたが、取り越し苦労でしたね

吉川 だから、壊れておらんというのに。そうだ、いま家康殿が飼っているという鷹が来て・・・

お容が戻ってくる

穴戸 戻りました！

吉川 おお、穴戸。ご苦労だった

穴戸 毛利軍、及び周辺各軍、装備確認完了です

粟屋 殿の様子は？

穴戸 いかってます。結局一丁も不備がなかった事に、時間を無駄にしたと怒り心頭です

熊谷 あちやー・・・

穴戸 早く東軍に突撃せよとの伝令も預かってまいった

吉川 うーん・・・

福原 早く何か考えませんか

吉川 お容

お容 大丈夫です。サブロウさんが大事なことを教えてくださいましたよ

お容、吉川へ耳打ち

弁士

さてさて、ここでお勉強コーナーでございます。

冒頭からちらほらと会話の中に出てくる「小早川」というお家でございますが、こちら毛利家と同じくらいに合戦の運命を握っておりました。

この戦、ざっくりと各軍の兵の数を申しますと、一番多いのが

東軍徳川軍の3万と最も多かったわけですが、2番目が西軍宇喜多家の17000、その次に毛利家15000と小早川家が15000と続くわけです。その下は皆

1万以下の兵力だったわけでありますから、毛利と小早川がいかに多大な影響力を持っていたかというのは、お子様でもお分かりでしょう。

宇喜多家は生粋の西軍でございましたので、この戦はつまり、毛利と小早川を味方に付けた方が勝ちだったのであります。

小早川家の当主もまた、秀元とはまた違った意味で個性的なキャラだったのであります。それはまた別のお話。

場面は再び毛利陣内に戻ります。動かない前方吉川勢に対して、秀元の怒りも沸騰寸前でございました。

第7場

毛利陣内

秀元が一人イラついている

秀元

んだよ・・・何で動かねえんだよ！

物にあたつたり・・・

遠くから声が

鷹

いやっほおーい！

鷹が走り去る

途中で一回戻って秀元とハイタツチ

輝元にも気付き輝元ともハイタツチして走り去る

秀元

・・・なんで？

輝元

・・・さあ？

長宗我部がやってくる

盛親

秀ちゃん？

おお、盛親ちゃん。今さあ・・・鷹みたいのが来て、こうやってタツチしてった・・・

盛親　　なんで？

秀元　　知らない

盛親　　そつか・・・

秀元　　うん・・・で、何しに来たの？

盛親　　そ、そうでござった！いつになったら動くのであろうかと

秀元　　わかってっけどさあ、前が動かねえんだよ

盛親　　吉川殿でござるか

秀元　　そう。あいつ何やってんだよ

盛親　　もしやこのまま動かない気であらうか・・・

秀元　　は？

盛親　　あの方は始めから東軍に付く気であつたから・・・

秀元　　有り得ねえでしょ。言うこと聞かないとか

盛親　　思えば昔から頑固な方であつたから

秀元　　あ？

輝元　　確かに・・・

盛親　　吉川殿は一度こうと決めたら命をかけてでも信念を貫き通す方であらう。今回の戦も

秀元　　西軍としての参加に最後まで反対なさつていた

盛親　　でもよ・・・今回は俺が指揮してんだよ

秀元　　その通り。武士の世で許されることではござらん

吉川まじか・・・

福原が入ってくる

福原

秀元殿

秀元 福原！お前らなんで動かねえんだ
福原 も・・・申し訳ございません・・・
秀元 わざとじゃねえよな？
福原 は？
秀元 東軍に味方するために俺らの邪魔してるわけじゃねえよな
福原 い、いや・・・そんな事は・・・決して・・・
秀元 はつきり話せ！
福原 はい！そんな事はありません
秀元 じゃあ、何で動かねえんだ

大谷が来る

大谷 毛利殿！
秀元 あん？
盛親 お・・・大谷吉継殿・・・ですよ？
大谷 いかにも
盛親 何故ここに？！前線で戦っている最中では？
大谷 ええ、毛利殿にお伝えしたいことがあります
盛親 前方には徳川の大军がいたはず・・・どうやってここまで
大谷 ええ・・・
秀元 悪いね。動かねえから催促に来たんだろ？
大谷 その事なのですが――
秀元 チョ待っててよ。こいつらぶつ飛ばしてすぐ行くからさ
大谷 いえ秀元殿、毛利軍はまだ動いてはなりません

秀元

だからすぐ・・・あ？

大谷

もう少し様子を見ていただきたい

秀元

は？狼煙上げたのはあんただろうが

大谷

確かにそうなのですが

秀元

動けつつったり、動くなつつたりなんなの？

大谷

これは・・・これは私の個人的な見解なのですが、戦局は刻一刻と変化しております。

大谷

場合によってはこの戦、西軍の敗北もありえるでしょう。

秀元

それで？

大谷

そうなった場合、毛利には大阪城に戻っていただき、秀頼様をお守りしていただきたい・・・

秀元

だから、勝てそうになるまで見てろってか

大谷

それが賢明でしょう

秀元

はーん・・・(福原に) お前えはなんで来たんだよ

福原

はい。先ほど、吉川殿の下へ情報が入ってまいりました

盛親

「西軍の裏切り者は小早川」との事

福原

小早川殿だと？！

盛親

はい。小早川軍は松尾山に陣を敷き、我々毛利勢と同時に東軍を側面から攻める作戦でありま

盛親

したが、いまだに動きなし。そのまま西軍に攻め込むとの情報が入ってまいりました！

福原

小早川軍の数は？

盛親

我々と同じかそれ以上です

大谷

15000以上か・・・西軍の中でも1、2を争う数でござるな

福原

小早川にも家康様、いえ・・・徳川の息がかかっておりましたか

秀元

はい。小早川が裏切れば戦局が東軍に傾くことは明らかであります

福原

どこからの情報だ

福原

そ、それは・・・

秀元 話せ！

福原 あの・・喋る鷹と言っておりましたが

秀元 あいつか？！

福原 あいつ？

秀元 こっちの話だよ

とにかく、もう一度考えを改められたほうがよろしいかと

・・・

福原 そうでござるな。秀ちや、いや秀元殿、急いで動かずに正解であつたかもしれん
大谷殿も仰っておるし。

福原 秀元殿、ここはしばらく様子を見て、優勢なほうに付くというのも手でありませうむ。そういう理由なら恵瓊殿も納得するであろうし

福原 情報が届き次第随時お知らせにまいりますので、秀元殿はここで待っていてください
まずは小早川の動きを調べる必要がござるな

福原 すぐに手配をいたします

大谷 小早川が裏切るならば戦い方を変えねばなりません。私も自陣へ戻りましょう
頼みました

福原 では、兵たちにも伝えますゆえ、一旦これにて

福原出ていこうとする

秀元 待て。

福原 何でありましょうか？

秀元 お前ら・・だから動かなかつたのか？

福原 え、いや・・

秀元 東軍が有利だと思つてたから、適当に理由つけて止まつてたのかよ
福原 適当ではありません。鉄砲に不備がありましたし・・・

秀元 全部問題なかつたじゃねえか

福原 それは、結果でありまして・・・

秀元 小早川の裏切りがわかつたのだつて結果の話だろうが。

福原 このままだったらと戦が終わるまで時間稼ぐつもりだったか

秀元 いえ、稼ぐとかそういうつもりでは

福原 吉川呼べ。すぐにだ

秀元 吉川殿はいま先陣を指揮しておりますので

福原 動いてねえだろうが

秀元 しかしですね・・・

福原 全軍を指揮してるのは吉川じゃねえ。俺だ

秀元 仰るとおりであります

福原 じゃあ、何で吉川の思い通りになつてんだ

秀元 (大谷に) あんたもそうだが。個人的な見解だ？そんなもん聞いてねえよ。

福原 どういつもこいつも指図しやがって・・・いろいろな言われんのが一番いらつくんだよ

大谷 私はただ・・・

福原 吉川殿は毛利家全体のことを思つて・・・

秀元 俺だつて思つてるあ！・・・小早川はまだ動いてないんだろ？

福原 毛利が後ろから東軍に攻め込んだら、小早川の気も変わるかも知れねえだろが。

盛親 そしたら勝つのはどつちだ？

秀元 それは、西軍になるであろうが・・・

福原 勝ち負けを握つてるのはこの俺だ！そうだろ！

福原 は、はい・・・

秀元 違うんか大谷さんよ

大谷 いえ・・その通りです

秀元 吉川を呼んで来れないなら、俺が行く。(大谷に) あんたも自分のとこ戻って見てなよ

秀元、陣を出て行くこうとする

福原 秀元殿！

盛親 待たれよ秀元殿！

秀元の前に輝元が立ちはだかる

秀元 どけ

輝元 恐れながら申し上げます、毛利全軍は秀元様のご判断に命をかけて従う覚悟でございます

秀元 ああ

輝元 ですから、どうか怒りに任せてだけで動かれるのはおやめ下さいませ

福原 おい！

秀元 三下が誰に口利いてんだ！

輝元 まあまあ、きつと秀元様は腹が減っていらつしやるのでしよう・・・そうだ、私ちようど・・

輝元、握り飯の入った包みを懐から出す

輝元 お口に合うかわかりませんが・・・

秀元 舐めやがって

秀元が刀に手をかけたその時、影丸が飛び出してくる
輝元と同じ兵隊用具足をつけている

影丸
お待ちくださいませ！

影丸、秀元と輝元の間に入る

盛親
影丸
秀元
どこから入った！
田舎者ゆえ悪気があつたわけではございません。どうかご容赦ください
・
・
・
・
・
・

秀元の手はまだ刀にかかったまま
影丸、輝元の手から握り飯を取り秀元に差し出す

影丸
秀元
頭は悪いですが、秀元様を心から思つての事でございます。平に、平にご容赦くださいませ
・
・
・
・
・
・

秀元、影丸から握り飯を取り出ていく

福原
秀元殿！

福原追いかける
盛親、輝元らの存在を怪しむが秀元を追いかける
雲丸も出てくる

影丸
ふう・・・

輝元
誰が頭の悪い田舎者だと？

影丸
申し訳ありません。しかし・・・

輝元
良い。わかっておやる

影丸
・・・このまま放っておかれるのですか？

輝元
すべて吉川に任せてある・・・つい口を出してしまった。わしもまだまだじゃな。

大谷
大谷殿も早く戻られよ

大谷
え？

輝元
ここへ来たのは個人的見解などではなからう

大谷
・・・あなたは！そんな・・・

輝元
皆には黙っておいて貰いたい。

大谷
いらしていたのですか

輝元
ああ・・・私は此度の戦に口を出すつもりはないが・・・そなたは西軍東軍どちらなのじゃ？

大谷
どうもおかしな動きをしておるな

大谷
私は・・・聞くまでもありません。秀頼様の事よろしくお願いいたします。失礼

大谷出ていく

輝元
聞くまでもありません。か・・・惜しいの。境遇次第ではもつと上まで行けたであろうに

雲丸
病のことではありませんか

輝元
それもあるが・・・雲丸、影丸、行くぞ

影丸
どちらへ？

輝元
目的は達した。大阪城へ帰るのじゃ。

第8場

吉川陣内

吉川・宍戸・粟屋・熊谷・お容がいる

各々小早川方面、後方毛利方面などを気にしている

粟屋

熊谷

粟屋

宍戸

粟屋

宍戸

粟屋

宍戸

粟屋

吉川

粟屋

吉川

お容

吉川

粟屋

熊谷

宍戸

熊谷

(熊谷に) どうだ？小早川は動いたか？

いや・・・大きな動きはこれと言って・・・

(宍戸に) 毛利軍の方はどうだ？

ここからはよく見えませんが、動いてませんね

そうか・・・うーん

少し落ち着いてください

落ち着いていられるか！小早川が動けば戦局は変わるのだ。本当に動くのか

吉川殿がそう申しておるのだから信じるしかないでしょう

吉川殿！どうなっておるのですか

さあ

さあではない！

わしにもわからん。お容・・・

広家様、困ったときこそ？

わかった。笑顔じゃろ。(笑顔)・・・これでさつきから変人扱いじゃ

吉川殿、このまま小早川が動かなければ秀元殿が痺れを切らせてしまうぞ

後ろから攻め込まれるということですか？！

福原が上手くやってくれば良いのですが・・・

事と次第では次の手も考えなければいかんぞ

吉川
きつと小早川は動く。信じるのじゃ

福原が入ってくる

福原
・・・

福原！どうしたのだ

粟屋
・・・申し訳ありません

秀元殿は・・・どうなさったのです？

穴戸
何故帰ってきたのですか。あなたが秀元殿を抑えてなければならぬのですよ

福原
申し訳ありません

お容が何かに気付く

お容
いけません。それ以上話させては・・・

粟屋
謝る意味がわからん。すぐに戻って秀元殿を黙らせて来んか

粟屋！

奥から秀元と盛親が来る

秀元
へー、俺を抑えて、黙らせてたわけか・・・

熊谷
秀元殿？！

秀元殿、違います！別にそんな事では・・・

秀元
黙れ！・・・吉川！説明しろ

そろそろ、いらつしやる頃とは思っておりましたが・・・

吉川

秀元 事情は大体飲み込めた・・・弁解させてやる
吉川 弁解など何もございませぬ。ご覧のとおりでございませ
秀元 そうか、じゃあ、腹を切れ
盛親 秀元殿、やり過ぎです
秀元 主君の命令に背いてんだ。妥当だろ
吉川 わしの主君は輝元様でございませぬ
秀元 俺はその親父から任されてんだ。俺の言葉は親父の言葉だ！
吉川 お父様でしたらそのような事は申しませぬ
秀元 うるせえ。
福原 秀元殿、お待ちください
秀元 待たねえよ！早くしろ

恵瓊と長束が来る

長束 秀元殿、探しました
恵瓊 自陣を離れるとは何事ですか。合戦中ですぞ
秀元 待つてろ。今戻る。そしたら突撃だ
恵瓊 ・・・・いつまでも動かないと思つたら、やはり原因はここでしたか
秀元 謀反人だ。腹を切らせる
長束 腹を？！吉川殿のですか？
恵瓊 やむを得ませぬな
穴戸 お待ちください。吉川殿は謀反など・・・
栗屋 秀元殿、なりません！
お容 広家様・・・ご弁解をなさってくださいませ

吉川 弁解はせん。もともと覚悟はしておりました。どうして腹を切れというならば切りましよう
熊谷 吉川殿！
秀元 潔いな。
粟屋 なりませんぞ秀元殿
穴戸 秀元殿、冷静になつてください
熊谷 ひい！いやです
吉川 ならばおとなしくしていなされ
お容 責任は全て私にあります。他の者は関係ありません
吉川 いけません、広家様
惠瓊 さあ、吉川殿。早々に腹を切っていたかどうかではありませんか！
秀元 (刀を抜く) 介錯してやる
吉川 これまでの誼みもありますから、死んだら念仏くらいは唱えて差し上げましょう
惠瓊 そんなものはいらんわ！秀元殿、私はどうして腹を切るのでしょうか？
秀元 ……俺を侮辱したからだ
吉川 そうですか。あなたはそれがお家のためとご判断なさったのですね？
秀元 ……そうだ
吉川 わかりました
お容 広家様！
吉川 お容すまん。死んでからお前に会えるのを楽しみにしとつたが、その願いも叶わんようじや
お容 私が余計な策などを考えてしまったばかりに
吉川 お主のせいではない。迷惑かけたの
お容 私ではなく、ご自分の心配をなさってください
吉川 いいんじや、これがお家のためになるというのならばな

吉川準備が整う

吉川

では・・・

秀元

言い残すことはないか？

吉川

惜しむらくは・・・秀元殿、あなたがもつとご立派になられたお姿を見たかった・・・
参る

吉川が腹に脇差を立てようかとしたその時
隣に福原が座る

福原

吉川殿が切腹なさるなら私もお供いたします

吉川

福原、やめるのじゃ！

福原

いえ、秀元殿が怒りになつてしまったのは私の言葉が足りなかつたせいでありませう。

秀元

吉川殿が切腹した後はどうやって私に生きろというのですか。良いですね秀元殿

福原

・・・勝手にしろ

福原

どなたか、介錯をお願い致します。

粟屋が福原の下へ

刀を抜くかと思いきや隣に座り腹を切る支度をす

粟屋

吉川殿が死んだら、気持ち良く生きられんのはお前だけじゃないわ

吉川

粟屋！

粟屋

お供させていただきますよ

同じように宍戸が座る

宍戸 お供ならば多いほうがいいでしょう

吉川 宍戸・・・

長束 お主等、正気か？

宍戸 正気ではないかもしれませんが。吉川殿に中（あ）てられましたかな

盛親 やめるのだ。今ならまだ間に合う。

宍戸 長宗我部殿、お気遣い感謝いたします。しかし我々、正気ではないかもしれませんが、

本気でございます

粟屋 武士に二言はありませぬ。

秀元 どういつもこいつも、馬鹿にしてんのか！

粟屋 熊谷、来るなら今だぞ

躊躇していた熊谷

熊谷 もう！困った人達です

覚悟を決めて一緒にすわる

吉川 熊谷・・・

熊谷 私だけ生き残るわけに行かないじゃないですか

恵瓊 とんだ茶番でございませぬ。そんな事で慌てる秀元様ではないぞ。そうでしょう秀元殿

盛親 秀元殿良いのか？

秀元 こいつらが自分で選んだんだ。勝手にさせろ・・・

空戸 さあ、時間が経てば覚悟も鈍ってまいります。さつとやっつけてまいりましょう
福原 そうです
栗屋 では！
吉川 待て。

吉川立ち上がる

吉川 やっぱやーめた
福原 は？
空戸 吉川殿！
粟屋 何を言い出すのだ
熊谷 覚悟しちゃいましたよ
吉川 ・・・・お主たちまで道連れにはできん
福原 これは自ら決めたこととあります！
惠瓊 今更そんな事通用すると思っておるのか
吉川 お主は黙っておれえ！

吉川の劍幕に驚く惠瓊

吉川 わし一人なら良いかと思っておりましたが、事情が変わりましたので腹は切りません
秀元 切らないでどうするつもりだ
吉川 どうも致しません
栗屋 吉川殿、わしらにも体裁というものがある
吉川 体裁など・・・どうでも良いではないか。大事なのはお家じや

秀元

お家だと、ふざけるな！ここまでコケにされてお家もクソもあるか！

大事なのは舐められねえ事だろうが！負けても死んでも相手にすげーって思わせておけば先々毛利を舐めるやつはいなくなんだろうが。それがお家のためじゃねーのか

・・・ふう、まったくわかっておりませんな

腰抜けのてめえよりわかってるよ

いいえ、わかっております

仲間の切腹にビビって、いも引くような奴に何がわかるんだ。

ビビったわけではございません

じゃあ、腹を切れ！すぐに掻っ捌いて見せろよ。そうすりやまだ毛利家の面子は保たれるんだ

お家のためになるだろ

吉川、毛利を張り倒す

吉川

知った口を利くな馬鹿者！

お家とは、そなたの考えているほど軽いものではない！

や、やつてしまった・・・

お家とはその姓を名乗る者だけの物ではない。その下には我々のような者がいて、更にその下には命をかけて戦ってくれる沢山の兵たちがいるのだ。

兵たちにはそなたと同じように愛する者がいて、家族がいるのだ。お家のためと言って、愛するもののために命を懸けておるのだ。

その何万何十万という思いが集まって国となり、お家となるのだ

我々武士は、少しでも多くの思いに報いなければならん。それが武士の信念だ。その信念が守られるならば・・・面子など、どうでも良いではないか

お家の重圧で変わってしまったか？どうなされた、秀元殿？

長束
吉川

秀元
吉川
秀元
吉川

お容
広家様・・・

倒れている秀元に手を差し出し立たせる

吉川
何が大切か、もう一度お考え下され

あつげにとられる面々

惠瓊
は、はははは。やりよったな吉川よ。手を上げよった！

吉川
いくら立派なことを言っても、手を上げてしまつてはどうしようもないな
そう。わしはどうしようもない人間じゃ。だから・・・

吉川、惠瓊も張り倒す

吉川
お主の事も殴る。ああすつきりした・・・

再び切腹の用意をする

吉川
これで、腹を切るのはわし一人です十分でしょう

福原
吉川殿、我々を助けるために・・・
吉川
ん？何のことじゃ？

お容
・・・広家様、ご立派でした。

お容
お容、これで最後じゃ
・・・お慕い申し上げます

吉川 有難う。秀元様、お家のこと頼みましたぞ

広家腹を切ろうとする

秀元

待て！

……腹は切らんでいい

その代わり、お家のために最善な策を提案しろ

秀元殿……

いいか最善だぞ。最も善い策だ。そうでなければ切腹だ

はい……只今健闘いたします

秀元殿！最善な策など決まっておるではありませんか。小早川が動く前に我々が動くことで

ございますよ！

左様でございます！すぐに動きませんと

動きたければ動け。毛利はまだ動けん

吉川も動けませぬ

西軍から何度も使者がやってきているというのに、何とお答えするおつもりですか

毛利軍は……

懐の握り飯に気が付く

秀元

兵に弁当を食べさせてっから

長束

べ、弁当ですて？！

秀元

ああ、腹が減っては戦は出来んでしようよ。いらいらするし

恵瓊

そんな言い訳通用すると思いいですか

毛利　じゃあ、お前らだけ動けよ

盛親　その時は、まず毛利軍と戦うことになるでしょうな

長束　・・・そうだ、我が軍の兵たちにも食事を取らせよう

長束　そそくさと出ていく

盛親　長宗我部の兵たちも長い待機で腹を空かしている事でしょう。食事をさせてまいる

秀元　悪いな

盛親　なんの。お互いに長い食事になりそうだ

盛親出ていく

吉川　（恵瓊に）お主はどうする？

恵瓊　・・・この出来事、必ずや石田殿にお伝えいたしますぞ。石田殿だけではない。日の本中に知

お容　うるさい坊主ですね

お容、恵瓊を張り倒す

お容　死んでも触れるのですね♪

恵瓊　なんだ・・・あ、悪霊だ悪霊がおるぞ！

吉川　お容、お主は悪霊だそうだ

お容　だとすればあなたは悪霊の旦那様ですね

吉川　はははは。それも悪くないな。

惠瓊

払ってやる・・・これは呪いだ。悪霊の呪いだつたのだ。全て悪霊のせいだ。ノーマクサマン
ダバザラダンカンオンベイシラマンダヤソワカ・・・

呪文を唱え続ける惠瓊

福原
穴戸

もしかしたら、本当に容光院様はいるのかもしれないね
私もそう思い始めたところです

秀元

広家、俺もそろそろ自分のとこ戻るわ

吉川

左様でございますか。動きがありましたらすぐにお伝えにまいります

秀元

頼んだ

福原

秀元殿、陣までお送りいたします

穴戸

お供いたします

粟屋

我々も

熊谷

私も入ってます？

秀元

広家を一人にするのか？

福原

いえ、二人きりになつていただこうかと

秀元

惠瓊と？

栗屋

惠瓊殿は我々と一緒に

惠瓊

悪霊退散！ 渴ーっ！

弁士

これが知る人ぞ知る歴史の故事「宰相殿の空弁当」でございます
安国寺惠瓊が何度目かの渴ーっを叫んだとき、痺れを切らした家康が、これ以上動かんならば
と催促するように松尾山の小早川国に向かい、一斉射撃を始めたのであります。

家康 撃てえー！動ぬならばこちらにも考えがあるぞ

三成 家康め血迷ったか。もつと狼煙をあげよ。全軍に動くよう知らせるのだ！

毛利は何故動かんのだ！

島 黒田隊後退！やつらは怯んでおります。毛利などいなくても勝てますぞ！

家康 小早川はまだ動かんか！撃て！動くまで撃ち続けてやれ

黒田 引くなあ！それでもおぬしら武士か！

島 黒田！まだ来るか！

黒田 島だけでも討ち取れ！

本多 左近、わしを忘れておらんか

島 しつこいぞ・・・来い！

黒田 数でかかれ！

島 何人で来ても（喰らう）う！

黒田 今だ。討ち取れ！

島 効かぬわあ！（ぐさぐさ）ぐあ！

本多 うりやあ！

本多の一振りです左近は致命傷を負う

本多 島左近討ち取ったり！

左近

ぐ・・・無念・・・

三成

左近――

弁士

ちようど太陽が関ヶ原の真上を照らした正午
まるで左近の戦死がきつかけであったかのように、小早川軍を始め松尾山に布陣する武将
たちが一斉に西軍へなだれ込んだのであります

三成

こ、小早川が・・・

大谷が三成の下へ

大谷

三成殿！

三成

大谷殿・・・小早川が裏切りおった！

大谷

ええ・・・

三成

左近が・・・

大谷

・・・ええ。

三成

とんだ計算違いだ

大谷

流れが変わります。ここは私と共に

三成

共に逃げよと？

大谷

はい

三成

・・・ふ、それが出来るならばはじめから戦など仕掛けてはおらん！

大谷

覚悟を・・・お決めなのですね

三成

大谷殿よ、共に逃げよというならば、わしと共に・・・

大谷 何です？

三成 いや・・・お主だけでも家康の元へゆけい！

大谷 え・・・

三成 わかつておる。お主が家康の為にも動いておったことは・・・

大谷 私は・・・

三成 もうよい

大谷 私は、三成殿がここで共に死のうと仰るのであればお供する覚悟は出来ております

三成 ・・・・本場に儀に熱い奴よ。大谷殿よ、最後に今一度その素顔を見せてはもらえぬか

大谷、被り物をとる

三成 綺麗な顔ではないか・・・まるで病にかかっているとは思えぬ。いつの間にかわしは

儀ではなく・・・お主の事を・・・よい。早くゆけ

大谷 私は、あなたのご恩を忘れません。この姿を知り、尚も武士として接してくださったご恩を・・・

三成 その恩に報いてくれるならばこれ以上わしに恥をかかせるでない。お主はお主の思いを・・・

家康に届けよ

大谷 三成殿・・・

三成 行かぬならばここで切るぞ！

刀を振り上げる三成

しばし対峙し走り去る大谷

振り上げた刀を東軍へ向ける三成

三成 家康・・・これ以上何かを失うわけにはいかぬぞ・・・さあ！参ろうか！

熊谷 と、殿、ご覧下さい！
粟屋 小早川の裏切りは本当であったか
穴戸 戦局が・・・動きますよ
恵瓊 わしは信じんぞ。全て悪霊の呪いだ！
栗屋 わかりました。参りましょう

恵瓊、念仏を唱えながら連れて行かれる

福原 さあ、秀元殿まいりましょう。
秀元 広家は一人ではないか
穴戸 いいのですよ。追々お話いたします

皆に連れられて出ていく秀元

吉川 変な気を使われてしまったな
お容 私のことが見えたのでしょうか
吉川 いいや、見えてはおらんじやろうが・・・
お容 広家様、もう自分から命を絶とう等とはお考えになりませんように
吉川 すまん
お容 広家様が死んでしまったら私はどうやって生きていけばいいのですか
吉川 ・・・・もう死んでおるではないか
お容 そうでした

和氣藹々の二人だが

お容の身体が・・・

吉川 お容？どうしたのじゃ？

お容 身体が・・・

吉川 まさか

お容 あの念仏、効いてしまったみたいですが

吉川 お主は悪霊ではないではないか

お容 でも、この世にいてはいけない存在です。

吉川 待て！まだ行かないでくれ

お容 私にはどうにも出来ません

吉川 あのクソ坊主を呼んで何とかさせよう

吉川、恵瓊を呼びに行こうとする

お容 待って！広家様、おそばにいてくださいませ！

吉川 じゃが・・・

お容 一人で消えとうありません！

吉川 消えては駄目じゃ。まだ話したいことが沢山ある！

お容 向こうで楽しみに待っておりますよ

吉川 嫌だ。行かんでくれ

お容 かえって来れて楽しかったです

吉川 わしもだ

お容 必ず、生き抜いてくださいね

吉川 ああ、わかった

お容 お容
吉川 広家様、私はあなた——（最後の言葉は小さく聞き取れない）
何？なんと聞いたのだ。お容、お容！

お容消えてしまふ

吉川 お容おお！

弁士 午後1時

島左近討ち死にの報は西軍の士気を大きく下げました

それまで互角に戦っていた西軍小西・宇喜多軍も劣勢に追い込まれます

ここで東軍の勝利は確信的なものになったのであります。

午後2時、もはやこれまでという石田三成

三成 何故だ、何故我々は負けたのだ？まだ終わっておらんぞ！

弁士 と未練を残しておりましたが、家臣たちに無理に連れられ敗走したのであります。
西軍は何故負けたのか。

儀に熱く、冷静沈着が売りの三成でございましたが

いつの間にか目的が家康への嫉妬に変わっていたのかもしれない

自分の隣には島左近という当代随一の義理者がいたというのに……

とにもかくにも、

三成 大谷よ、いつか、いつかまた会える日が来ることを祈っておるぞ……

弁士

と言ひ残して去つた光成でしたが、
彼がこの後、歴史に名を残すことはありませんでした
そして午後3時

西軍全ての軍が壊滅、又は敗走により

関ヶ原の戦いの幕は下りたのであります。

一方家康はと申しますと、・・・

家康

終わったか・・・

大谷が来る

大谷

家康殿・・・

家康

大谷殿、生きておったか

大谷

はい。生かされてしまいました

家康

毛利を、留めておいてくれたのだな

大谷

いえ、私の力ではございませぬ。私には何も・・・出来ませんでした・・・

家康

そうか、しかし此度の合戦前からの働き大変感謝しておる。これからもよろしく頼むぞ

大谷

・・・あなたは、ずいとお方です。私の思いをわかつていて、そう仰る

大谷、刀を抜く

家康

何を・・・

大谷、家康へ切りかかるが、簡単に家康に切られてしまう

大谷 よかった……

家康 お主、目が……はじめから死ぬつもりであったか

大谷 ええ。元々、病で長くはありませんでしたし……私には三成殿との友情とあなたへの思い、どちらかを選ぶことが出来ませんでした。

家康 そうか……

大谷 家康殿……どうか私の首をこの地に埋めてください……

家康 首など取りはせぬ

大谷 最後のお願いでございます。そうすれば、いつかその場所に花が咲き……その花は……その花は風となつて……私の思いはあなたと……そして三成殿のもとへ飛んで参ります……

家康 ……お主が望むならば……その願い承った。

大谷、息絶える

弁士 家康がこの願いを聞き遂げたかどうかは定かではありませんが

大谷吉継の死体はいくら捜しても関ヶ原から見付かることはなかったそうです、しかし

この戦いの後、毎年そこには何故かオキナグサが咲くそうでありませぬ。

気丈に振舞っていた家康ではありますが、実のところ、いつ誰の裏切りに会うか心底

恐れていたのです。猜疑心との戦いは晩年まで続き、不安からくる爪を噛むクセは死ぬまで直らなかつたとか……夕方、毛利陣内には広家、秀元を始め幾人かの姿がございました。

エピソード

いくさの後

毛利陣内

秀元・吉川

宍戸・粟屋

きく・清光院がいる

福原が入ってくる

福原　ご報告いたします！石田三成殿、敗走！東軍家康殿の勝利が決定的になりました

秀元　わかった

清光院　秀元、西軍が負けてしまいましたよ！毛利はどうなるのですか？！早く逃げないと

秀元　ここには攻めて来ませんよ

清光院　左様か・・・城は無事であろうか・・・

秀元　城よりも父上のご心配をなさって下さい

きく　ひでもつちゃん、うちら負けたの？

吉川　ご心配なく。負けということには致しません

熊谷が入ってくる

熊谷　申し上げます。安国寺恵瓊殿、敗走！東軍池田輝政軍が追走しております

粟屋　まさかあの後、東軍に攻め込むとはな・・・

宍戸　仕方ありません。西軍勝利の暁には領主の座を約束されていたらしいですから。

粟屋　誰にだ？！

穴戸 石田殿です。あくまで噂ですけど

粟屋 あのナマグサめ・・・

熊谷 長宗我部、長束軍はすでに関ヶ原を離れたものと思われま

穴戸 妥当な判断ですね

秀元 吉川、俺らはどうする

吉川 慌てる必要もありませんが、のんびりもしていられませぬ。まず輝元様の下へ向かい、

大阪城を東軍に空け渡します

清光院 あの城を渡してしまうのか？気に入っておったのに・・・

福原 元々、豊臣家のものですから

穴戸 輝元様のご無事は約束されているのですよね？

吉川 ああ。この書状がある限り家康殿も手出しは出来んはずだ（書状を出す）

熊谷 さすが吉川殿でございませ

秀元 今回は・・・お前らに救われた。西軍で戦ってたら、今頃きくも母君もどうなってたか

きく わかんなかったし・・・有難う

吉川 私からも、ありがとう。

秀元 もったいなきお言葉、ありがたき幸せでございませ

吉川 結果オーライって事で・・・ま、言い訳とか作戦は結構無理矢理だったけどな

秀元 何を仰いますか。完璧でございませよ

吉川 銃が壊れたとか言って有り得ねえし

秀元 それを言うなら秀元殿だって「弁当を食べてる」等と・・・弁当など作っても

吉川 おらんではないですか。

秀元 いいんだよ。俺の腹が減ってたんだよ

吉川 弁当など誰も持ってはおりませんでしたよ

秀元 おれは持ってたんだよ

秀元、懐から握り飯を出す

吉川 私だったらその様な言い訳恥ずかしくて……！？それは

秀元 面子なんか、どうでもいいよ……どした？

吉川 それは……そうですか。こんなところまでお散歩に……全く敵いませんな

秀元 握り飯が、どうかしたか？

吉川 いえいえ、その握り飯は残さずお食べくださいね。残したらバチがあたりますぞ

秀元 ああ……広家、あんがと

吉川 お礼の言葉は先ほどいただきましたよ

秀元 さっきのは毛利家としてつてつてつか……これは俺個人の感謝だから、

吉川 わたしは何もしておりませんよ

秀元 いや俺、さっきみたいに怒られたこと今までなかったし……本当の親父だったら、

吉川 ああいう風に怒るのかなつて……

秀元 殿……こんなに立派になられて……さあ、のんびりしてはいられませんよ。出発し

せんと

吉川出て行くこうとする。

粟屋 大変じゃ！

穴戸 声が大きすぎますよ

粟屋 この書状、家康の名前が書かれておらん

穴戸 え？（書状をとる）確かに……黒田殿、本田殿の名前は書かれておるが……

粟屋 あの狐、わしは約束しとらんとかいいうつもりか？！

熊谷 そういえば、ここに来たとき一言も話しをしませんでした

秀元
吉川
秀元
弁士

・・・説明しろ吉川
やばい・・・直ちに出發いたしましょう。

吉川あああああ！

この後、吉川家と毛利家は喧嘩をして、子孫代々まで口も利かぬという交流断絶状態となるのでございますが、ここにも語るに笑える物語があるのでございます。

いつか機会がありましたらお話させていただきますように

おっと、お時間が来てしまったようです。

いかがでしたでしょうか。これが私の関が原、毛利家の場合の解釈でございます。

ご静聴ありがとうございました。

カーテンコール

《完》